

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成29年6月26日

【事業年度】 第66期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

【会社名】 トーカロ株式会社

【英訳名】 TOCALO Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 三船 法行

【本店の所在の場所】 神戸市東灘区深江北町四丁目13番4号

【電話番号】 078 - 411 - 5561(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 木村 一郎

【最寄りの連絡場所】 神戸市東灘区深江北町四丁目13番4号

【電話番号】 078 - 411 - 5561(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 木村 一郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (千円)	20,929,477	22,598,585	26,068,072	28,746,096	28,963,506
経常利益 (千円)	3,058,473	3,656,549	4,889,641	5,027,981	5,801,434
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	1,873,768	2,175,570	3,030,837	3,015,513	4,070,252
包括利益 (千円)	2,179,540	2,693,193	3,438,259	3,064,280	4,192,206
純資産額 (千円)	22,654,336	24,693,721	27,151,673	29,070,210	32,252,866
総資産額 (千円)	30,071,938	33,507,307	36,646,685	37,992,205	44,331,382
1株当たり純資産額 (円)	1,441.91	1,560.73	1,709.47	1,827.70	2,016.43
1株当たり 当期純利益金額 (円)	123.28	143.14	199.41	198.40	267.80
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	72.9	70.8	70.9	73.1	69.1
自己資本利益率 (%)	8.8	9.5	12.2	11.2	13.9
株価収益率 (倍)	11.2	11.4	11.3	10.2	10.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,266,205	3,465,013	4,545,558	4,533,855	5,237,949
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,970,712	177,347	4,888,957	895,022	6,537,165
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,169,077	165,234	1,475,778	1,742,950	1,581,198
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	4,464,005	7,645,941	5,963,674	7,827,193	8,068,802
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	795 (273)	802 (242)	824 (243)	857 (239)	898 (245)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (千円)	17,692,472	18,312,277	21,209,584	23,777,527	24,299,076
経常利益 (千円)	2,946,714	3,201,244	4,154,170	4,324,617	5,024,964
当期純利益 (千円)	1,872,761	2,033,673	2,724,274	2,762,114	3,748,662
資本金 (千円)	2,658,823	2,658,823	2,658,823	2,658,823	2,658,823
発行済株式総数 (株)	15,800,000	15,800,000	15,800,000	15,800,000	15,800,000
純資産額 (千円)	21,585,522	22,992,769	24,780,848	26,403,053	29,036,904
総資産額 (千円)	27,797,069	30,153,271	32,499,270	33,891,628	39,261,632
1株当たり純資産額 (円)	1,420.19	1,512.79	1,630.44	1,737.17	1,910.47
1株当たり配当額 (内、1株当たり中間配 当額) (円)	40.00 (20.00)	50.00 (22.50)	60.00 (25.00)	75.00 (37.50)	85.00 (37.50)
1株当たり 当期純利益金額 (円)	123.22	133.80	179.24	181.73	246.64
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	77.7	76.3	76.3	77.9	74.0
自己資本利益率 (%)	8.9	9.1	11.4	10.8	13.5
株価収益率 (倍)	11.2	12.2	12.6	11.1	11.7
配当性向 (%)	32.5	37.4	33.5	41.3	34.5
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	510 (152)	505 (134)	517 (132)	534 (137)	560 (131)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

当社(形式上の存続会社)は、昭和48年6月に化学機械器具の技術サービスならびに販売を目的として、キザイサービス株式会社の商号で設立されました。

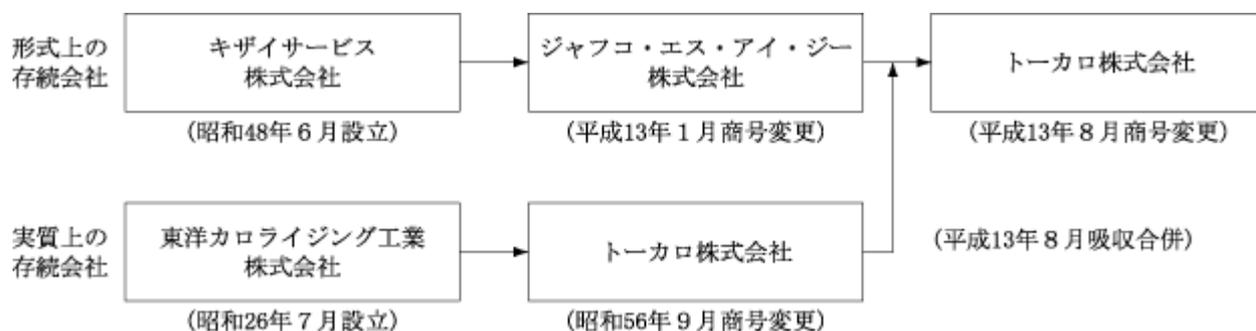
当社は、平成12年7月以降、営業活動を休止しておりましたが、平成13年1月に株式会社ジャフコが運営するジャフコ・バイアウト一号投資事業有限責任組合が当社の発行済株式総数の100%を所有し、商号をジャフコ・エス・アイ・ジー株式会社に變更いたしました。

また、平成13年1月下旬から3月初旬に、当社は、実質上の存続会社であるトーカロ株式会社(旧トーカロ株式会社)の株式の公開買付を行い、その発行済株式総数の97.9%を取得いたしました。

その後、平成13年8月に当社は子会社である旧トーカロ株式会社を吸収合併すると共に、商号をトーカロ株式会社に變更いたしました。

この公開買付や合併は、旧トーカロ株式会社の経営陣が、海外重機械メーカーからの同社買収を阻止するため、同社の当時の親会社でありました日鐵商事株式会社(現、日鉄住金物産株式会社)から同社株式を買い取って独立することを目的とした、いわゆるマネジメント・バイアウト(MBO)の一環として行われたものであります。

なお、合併前の当社は休眠に近い状態にあり、合併後は被合併会社である旧トーカロ株式会社の営業活動を全面的に承継いたしました。このため、合併前の状態につきましては、特段の記載がない限り実質上の存続会社である旧トーカロ株式会社について記載しております。また、事業年度の記載につきましては、実質上の存続会社である旧トーカロ株式会社の期数を承継しております。



年月	事項
昭和48年6月	横浜市港南区において商号キザイサービス株式会社、資本金1,000万円として設立。 化学工業薬品及び化学機械器具の技術サービス並びに販売等を行う。
昭和58年2月	神奈川県横浜市磯子区へ本店を移転。
平成12年7月	営業を中止し、休眠会社となる。
平成12年8月	東京都北区へ本店を移転。
平成13年1月	株式会社ジャフコが運営するジャフコ・バイアウト一号投資事業有限責任組合の100%出資となり、商号を「ジャフコ・エス・アイ・ジー株式会社」に変更、本店所在地を東京都千代田区へ移転。 実質上の存続会社であるトーカロ株式会社(店頭上場企業)の経営陣による同社のマネジメント・バイアウトの一環として、同社株式に対して公開買付を開始。

年月	事項
平成13年3月	トーカロ株式会社の公開買付を終了。トーカロ株式会社の発行済株式総数の97.9%を保有する親会社となる。本店所在地を神戸市東灘区へ移転。
平成13年8月	トーカロ株式会社を吸収合併。 商号を「トーカロ株式会社」に変更。
平成14年3月	本社および溶射技術開発研究所で「ISO 14001」の認証を取得。
平成15年5月	神戸工場で「ISO 9001:2000」の認証を取得。
平成15年12月	当社株式を東京証券取引所市場第二部に上場。
平成16年9月	日本コーティングセンター株式会社(現、連結子会社)の全株式を取得し、子会社とする。
平成16年10月	溶射技術開発研究所を明石工場隣接地へ移転。
平成17年3月	当社株式を東京証券取引所市場第一部に上場。
平成17年4月	中華人民共和国広東省広州市に出資比率70%の現地法人、東華隆(広州)表面改質技術有限公司(現、連結子会社)を設立。
平成18年5月	日本コーティングセンター株式会社の本社および本社工場を神奈川県大和市から神奈川県座間市へ移転。
平成18年10月	東華隆(広州)表面改質技術有限公司が中国当局からの営業許可を取得、操業を開始。
平成20年11月	名古屋工場で「JIS Q 9100」の認証を取得。
平成22年9月	明石第三工場を明石工場に移転、統合。
平成23年5月	中華人民共和国江蘇省昆山市に出資比率90%の現地法人、東賀隆(昆山)電子有限公司(現、連結子会社)を設立。
平成23年6月	中華民国(台湾)台南市に出資比率50%の現地法人、漢泰国際電子股份有限公司(現、連結子会社)を設立。
平成23年7月	宮城県黒川郡大郷町に宮城技術サービスセンターを設置。
平成24年8月	当社の全拠点で「ISO 14001」の認証を取得。
平成26年3月	名古屋工場で「Nadcap」の認証を取得。
平成26年8月	神戸工場を神戸市東灘区から神戸市西区へ移転。
平成26年12月	明石工場で「JIS Q 9100」の認証を取得。
平成27年11月	名古屋工場を名古屋市緑区から愛知県東海市へ移転。 米国カリフォルニア州に出資比率100%の現地法人、TOCALO USA, Inc. (現、連結子会社)を設立。

(旧トーカロ株式会社の沿革)

年月	事項
昭和26年7月	神戸市東灘区に、資本金1百万円をもって、東洋カロライジング工業株式会社を設立、カロライズ加工・販売を開始し、同時に神戸工場を設置。
昭和33年3月	金属溶射分野の研究開始。
昭和34年11月	千葉県船橋市に東京工場を設置。
昭和35年10月	金属溶射部門の本格的営業を開始。
昭和44年11月	北九州市小倉区(現、小倉南区)に小倉工場を設置。
昭和48年8月	岡山県倉敷市に水島工場を設置。
昭和49年8月	神戸工場に溶射、機械設備を増設。
昭和50年11月	神戸工場にTDプロセス工場を新設。
昭和51年3月	東京工場にTDプロセス工場を新設。
昭和55年4月	名古屋市緑区に名古屋工場を設置。
昭和55年7月	神戸工場にZACコーティング法の技術をアメリカのカマンサイエンシズコーポレーションより導入。
昭和55年9月	大阪府豊中市に豊中工場を設置。
昭和56年9月	「トーカロ株式会社」に商号変更。
昭和57年7月	兵庫県明石市に明石工場を設置。
昭和58年10月	豊中工場を閉鎖し、神戸工場に集約。
平成元年4月	兵庫県明石市に明石工場の機械加工専用工場として、製造部機械課分工場(明石第二工場)を設置。
平成3年3月	兵庫県明石市に明石工場のPTA処理加工専用工場として、明石第三工場を設置。
平成4年1月	神戸工場のPTA設備を明石第三工場へ移転。
平成5年10月	明石工場に隣接する土地・建物を賃借し、新溶射技術の開発を開始。
平成8年2月	本社社屋を新築完成。
平成8年10月	当社株式を店頭登録銘柄として日本証券業協会に登録。
平成9年7月	福岡県京都郡苅田町に小倉第二工場を設置。(現、北九州工場)
平成10年6月	明石工場事務所棟を新設。
平成10年7月	小倉第二工場で「ISO 9002」認証を取得。(現、北九州工場)
平成10年9月	東京工場パウダー溶射棟の改築。
平成11年5月	東京工場で「ISO 9002」認証を取得。
平成11年10月	明石工場で「ISO 9002」認証を取得。
平成12年9月	小倉第二工場に溶射工場棟を増設。(現、北九州工場)
平成13年8月	ジャフコ・エス・アイ・ジー株式会社に吸収合併。店頭登録廃止。

3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社、連結子会社5社、関連会社2社で構成され、溶射加工を中心とし、その周辺分野としてTD処理加工、ZACコーティング加工、PTA処理加工、PVD処理加工等を行っております。これらはいずれも、被加工品の表面にその基材とは異なる性質の皮膜を形成し新たな機能を付与する「表面改質加工」と呼ばれるものであります。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントと同一の区分で記載しております。

(1) 溶射加工(単体) (主な関係会社：当社)

溶射加工は、半導体・FPD(フラットパネルディスプレイ)製造装置の部品、発電用ガスタービンや電力貯蔵用電池、各種軸受類などの産業用機械部品および鉄鋼用ロールや製紙用ロール、化学プラント部品など設備部品等の被加工品の表面に、金属やセラミックス、サーメット等のコーティング材料をプラズマやガス炎等の高温熱源で加熱し吹き付けて皮膜を形成することで、耐摩耗性や耐熱性等の耐久性を向上させたり、導電性や電気絶縁性等の電気的特性や、遮熱性や放熱性といった熱的特性を与えたりと、様々な機能を付与する表面改質法であります。

溶射加工の方法は多種多様であります。当社では主に、プラズマを熱源とする大気プラズマ溶射や減圧プラズマ溶射、および燃焼炎を熱源とする高速フレーム溶射や溶線式フレーム溶射、粉末フレーム溶射等を用いており、被加工品の用途により使い分けを行っております。

(2) 国内子会社 (主な関係会社：日本コーティングセンター(株))

国内連結子会社の日本コーティングセンター株式会社は、主にPVD(物理蒸着)処理加工といわれる、切削工具や刃物、金型などへの表面改質加工を行っております。PVD処理加工は、真空中でチタン、クロムなどの金属を反応性ガスとともにイオン化し、切削工具、金型など被加工品の表面に、密着力の高い緻密な硬質セラミック薄膜を形成し、耐摩耗性、耐食性などの機能を付与する表面改質法であります。

(3) その他 (主な関係会社：当社、東華隆(広州)表面改質技術有限公司、東賀隆(昆山)電子有限公司、漢泰国際電子股份有限公司、TOCALO USA, Inc.)

TD処理加工は、自動車用金型や鉄鋼用部品、押出機部品等の被加工品を高温の溶融塩浴中にひたし、バナジウムやニオブなどを拡散浸透させ、極めて硬く薄い炭化物皮膜を形成することで、耐摩耗性や耐焼き付き性を付与する表面改質法であります。

ZACコーティング加工は、ポンプ部品や繊維機械部品、伸線機部品等の被加工品の表面に酸化クロムを主成分とする極めて緻密な複合セラミックス皮膜を形成することにより、耐食性や耐摩耗性を付与する表面改質法であります。

PTA処理加工は、溶接肉盛加工の一種であり、高度の信頼性を要求されるポンプ・バルブ部品や鉄鋼用ロール等の被加工品の表面に、各種の粉末材料を高エネルギーのプラズマアークにより溶融し溶接肉盛するもので、耐摩耗性や耐食性を付与する表面改質法であります。

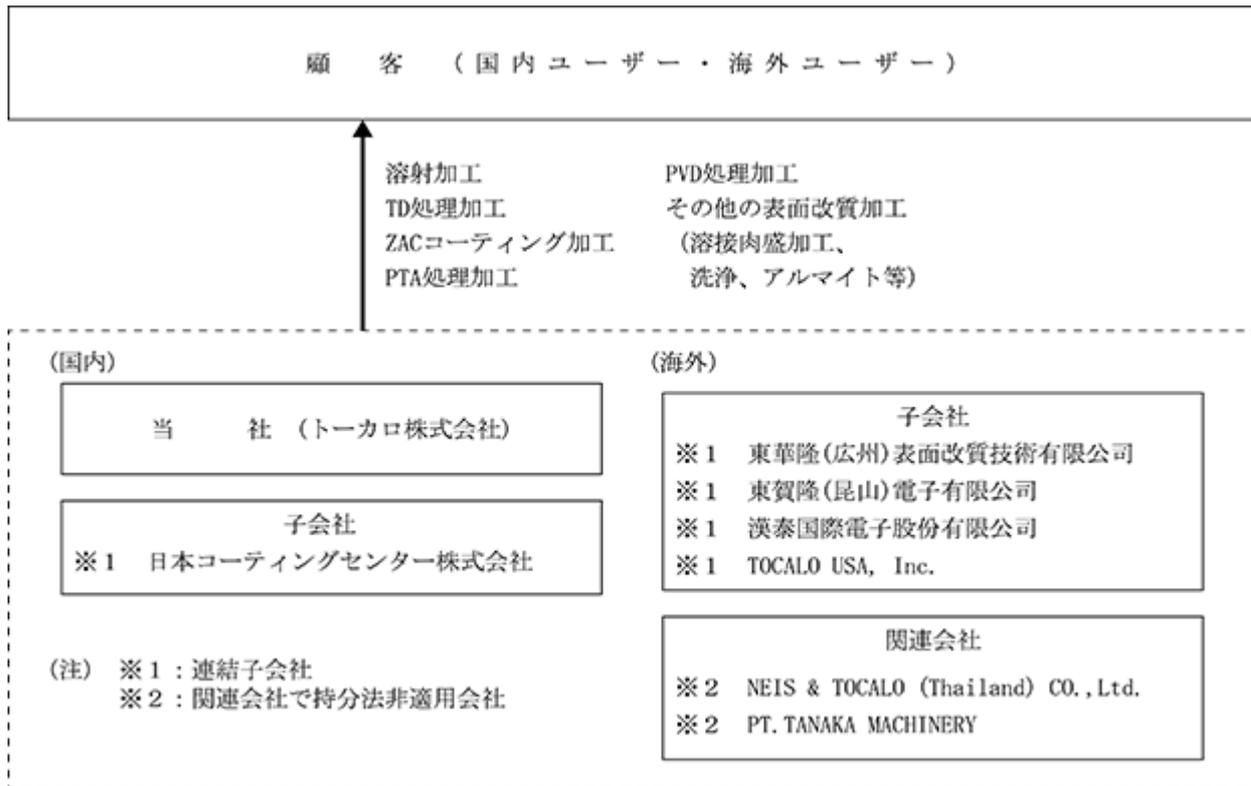
在外連結子会社の東華隆(広州)表面改質技術有限公司(中国広東省広州市、平成17年4月設立)は、主に中国国内において溶射と溶接肉盛を主体とする表面改質加工を行っております。

在外連結子会社の東賀隆(昆山)電子有限公司(中国江蘇省昆山市、平成23年5月設立)および漢泰国際電子股份有限公司(中華民国(台湾)台南市、平成23年6月設立)は、中国・台湾市場における半導体・FPD製造装置部品のメンテナンス事業の展開に向けた拠点であり、半導体・FPD製造装置部品等への溶射・洗浄・アルマイト等の表面改質加工を行っております。

在外連結子会社のTOCALO USA, Inc.(米国カリフォルニア州、平成27年11月設立)は、半導体・FPD製造装置部品のメンテナンス事業において、有力なエンドユーザーを有する米国でのサービス体制を整えるため、現地子会社を設立したもので、現在、操業開始に向けて準備中であります。

在外関連会社(持分法非適用)のNEIS & TOCALO (Thailand) CO.,Ltd.(タイ、平成24年10月設立)およびPT.TANAKA MACHINERY(インドネシア、平成28年2月出資)は、主に現地の日系鉄鋼メーカー向けに溶射および溶接加工等の表面改質加工を行っております。

また、事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 日本コーティングセンター(株)	神奈川県座間市	100百万円	国内子会社	100.0	加工業務の受委託 土地・工場建物等の賃借 役員の兼任等あり(当社従業員の出向2名、当社従業員の兼任2名)
東華隆(広州)表面改質技術有限公司 (注)2	中国広東省広州市	400万USドル	その他(東華隆、中国)	70.0 (出資比率)	当社による溶射加工の技術指導及び溶射材料等の販売 加工業務の受委託 当社による債務保証あり 役員の兼任等あり(当社従業員の兼任2名、当社従業員の出向1名及び兼任1名)
東賀隆(昆山)電子有限公司 (注)2	中国江蘇省昆山市	500万USドル	その他(東賀隆、中国)	90.0 (出資比率)	当社による溶射加工の技術指導及び溶射材料等の販売 加工業務の受委託 役員の兼任等あり(当社従業員の兼任1名、当社従業員の出向1名及び兼任1名)
漢泰国際電子股份有限公司 (注)2	中華民国(台湾)台南市	4億NTD	その他(漢泰国際電子、台湾)	50.0	当社による溶射加工の技術指導及び溶射材料等の販売 加工業務の受委託 役員の兼任等あり(当社従業員の兼任2名、当社従業員の兼任1名)
TOCALO USA, Inc. (注)2	米国カリフォルニア州	500万USドル	その他(TOCALO USA、米国)	100.0	当社による溶射加工の技術指導及び溶射材料等の販売 加工業務の受委託 役員の兼任等あり(当社従業員の兼任1名、当社従業員の出向1名及び兼任1名)

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。
2 特定子会社であります。
3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
溶射加工(単体)	449 (111)
国内子会社	112 (71)
その他	265 (56)
全社(共通)	72 (7)
合計	898 (245)

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
 2 従業員数欄の()内には、臨時従業員の年間平均雇用人員数を外数で記載しております。
 3 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員は除いております。
 4 全社(共通)は、研究開発部門及び管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
560(131)	38.7	13.4	6,992

セグメントの名称	従業員数(名)
溶射加工(単体)	449 (111)
国内子会社	()
その他	39 (13)
全社(共通)	72 (7)
合計	560 (131)

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
 2 従業員数欄の()内には、臨時従業員の年間平均雇用人員数を外数で記載しております。
 3 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員は除いております。
 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 5 全社(共通)は、研究開発部門及び管理部門の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、JAMトーカロ労働組合と称し、平成29年3月31日現在の組合員数は466名であります。また、在外連結子会社の一部においては労働組合が組織されております。

なお、労使関係については円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における当社グループの業績は、売上高は前期比2億17百万円(0.8%)増の289億63百万円、営業利益は同8億40百万円(17.5%)増の56億45百万円、経常利益は同7億73百万円(15.4%)増の58億01百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同10億54百万円(35.0%)増の40億70百万円となりました。

なお、セグメント別の状況につきましては、以下のとおりであります。

溶射加工(単体)

当社の溶射加工(単体)においては、半導体・FPD分野向け加工が、IoTやビッグデータ等のITインフラの進展やスマートフォンなど中小型パネルの高精細化を背景に好調であったことや、ティッシュなど家庭紙の需要拡大に伴い製紙用大型ロールのメンテナンスが大幅に増加したことにより、当セグメントの売上高は前期比3億75百万円(1.7%)増の223億08百万円、セグメント利益(経常利益)は同3億68百万円(8.2%)増の48億88百万円となりました。

国内子会社

日本コーティングセンター株式会社において、自動車部品加工用の切削工具向け受注が好調に推移したことなどから、当セグメントの売上高は前期比1億33百万円(6.8%)増の21億11百万円、セグメント利益(経常利益)は同1億30百万円(47.8%)増の4億02百万円となりました。

その他

その他表面処理加工(TD処理加工、ZACコーティング加工、PTA処理加工)の売上高は、自動車用金型向けの加工や鉄鋼メーカーの熱延ライン部品への採用が広がり、前期比1億63百万円(10.4%)増の17億36百万円となりました。

また、海外連結子会社は、現地通貨ベースでは概ね増収となったものの、円高が進展したことにより、円貨ベースの売上高合計は前期比4億55百万円(14.0%)減の28億06百万円となりました。

以上の結果、溶射加工(単体)、国内子会社以外のセグメントの売上高の合計は、前期比2億91百万円(6.0%)減の45億43百万円、セグメント利益(経常利益)の合計は、同28百万円(4.9%)増の6億13百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ2億41百万円増加し、80億68百万円となりました。

なお、当連結会計年度における各活動別のキャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動の結果得られた資金は、前連結会計年度比7億04百万円(15.5%)増の52億37百万円となりました。

収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益58億03百万円、減価償却費17億03百万円、未払費用の増加額2億12百万円、仕入債務の増加額1億73百万円であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加額8億88百万円、たな卸資産の増加額1億07百万円、法人税等の支払額16億51百万円であります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度比56億42百万円(630.4%)増の65億37百万円となりました。

支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出55億11百万円、有価証券の取得による支出20億00百万円であり、収入の主な内訳は、有価証券の償還による収入10億00百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における財務活動の結果得られた資金は、15億81百万円(前連結会計年度は17億42百万円の使用)となりました。

収入の主な内訳は、長期借入れによる収入32億68百万円であり、支出の主な内訳は、配当金の支払額11億41百万円、長期借入金の返済による支出6億48百万円であります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(注) 当連結会計年度より、従来「溶射加工」としていた報告セグメントの名称を「溶射加工(単体)」に、「PVD処理加工」としていた報告セグメントの名称を「国内子会社」にそれぞれ変更しており、「TD処理加工」、「ZACコーティング加工」、「PTA処理加工」については、その合計額を「その他表面処理加工」として、「その他のセグメント」については「海外子会社」として、それぞれ表示しております。また、溶射加工(単体)のうち、従来「半導体・液晶製造装置用部品への加工」としていたものを「半導体・FPD製造装置用部品への加工」に変更しております。なお、これらの変更が生産、受注及び販売の状況の数値に与える影響はありません。

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	前年同期比	
	生産高(千円)	生産高(千円)	金額(千円)	増減率 (%)
溶射加工(単体)	21,932,757	22,308,516	375,758	+1.7
半導体・FPD製造装置 用部品への加工	10,069,996	10,003,696	66,300	0.7
産業機械用部品への加工	4,071,997	4,049,765	22,231	0.5
鉄鋼用設備部品への加工	3,437,685	3,497,312	59,627	+1.7
その他の溶射加工	4,353,078	4,757,741	404,663	+9.3
国内子会社	1,977,718	2,111,327	133,609	+6.8
報告セグメント 計	23,910,475	24,419,844	509,368	+2.1
その他表面処理加工	1,572,896	1,736,686	163,790	+10.4
海外子会社	3,262,725	2,806,976	455,749	14.0
その他 計	4,835,621	4,543,662	291,959	6.0
合計	28,746,096	28,963,506	217,409	+0.8

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 上記の金額は、販売価格(税抜き)によっております。
 3 TD処理加工(当連結会計年度の生産高841,637千円)、ZACコーティング加工(当連結会計年度の生産高471,849千円)、PTA処理加工(当連結会計年度の生産高423,198千円)については、当連結会計年度より、その合計額を「その他表面処理加工」として表示しております。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(受注高)

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	前年同期比	
	受注高(千円)	受注高(千円)	金額(千円)	増減率 (%)
溶射加工(単体)	21,733,828	22,836,075	1,102,246	+ 5.1
半導体・FPD製造装置 用部品への加工	9,673,040	10,454,601	781,561	+ 8.1
産業機械用部品への加工	4,223,985	4,014,562	209,423	5.0
鉄鋼用設備部品への加工	3,402,479	3,546,983	144,504	+ 4.2
その他の溶射加工	4,434,322	4,819,927	385,604	+ 8.7
国内子会社	1,976,745	2,112,851	136,105	+ 6.9
報告セグメント 計	23,710,573	24,948,926	1,238,352	+ 5.2
その他表面処理加工	1,583,022	1,782,847	199,824	+ 12.6
海外子会社	3,049,471	2,774,270	275,201	9.0
その他 計	4,632,494	4,557,117	75,377	1.6
合 計	28,343,068	29,506,044	1,162,975	+ 4.1

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記の金額は、販売価格(税抜き)によっております。
3 TD処理加工(当連結会計年度の受注高851,556千円)、ZACコーティング加工(当連結会計年度の受注高483,540千円)、PTA処理加工(当連結会計年度の受注高447,750千円)については、当連結会計年度より、その合計額を「その他表面処理加工」として表示しております。

(受注残高)

セグメントの名称	前連結会計年度 (平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (平成29年 3月31日)	前年同期比	
	受注残高(千円)	受注残高(千円)	金額(千円)	増減率 (%)
溶射加工(単体)	2,298,178	2,825,737	527,558	+ 23.0
半導体・FPD製造装置 用部品への加工	892,031	1,342,936	450,905	+ 50.5
産業機械用部品への加工	443,876	408,673	35,203	7.9
鉄鋼用設備部品への加工	566,887	616,558	49,671	+ 8.8
その他の溶射加工	395,383	457,569	62,185	+ 15.7
国内子会社	34,185	35,708	1,523	+ 4.5
報告セグメント 計	2,332,363	2,861,446	529,082	+ 22.7
その他表面処理加工	130,531	176,692	46,160	+ 35.4
海外子会社	977,716	945,011	32,705	3.3
その他 計	1,108,247	1,121,703	13,455	+ 1.2
合 計	3,440,611	3,983,149	542,537	+ 15.8

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記の金額は、販売価格(税抜き)によっております。
3 TD処理加工(当連結会計年度の受注残高30,620千円)、ZACコーティング加工(当連結会計年度の受注残高67,440千円)、PTA処理加工(当連結会計年度の受注残高78,631千円)については、当連結会計年度より、その合計額を「その他表面処理加工」として表示しております。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	前年同期比	
	販売高(千円)	販売高(千円)	金額(千円)	増減率 (%)
溶射加工(単体)	21,932,757	22,308,516	375,758	+1.7
半導体・FPD製造装置 用部品への加工	10,069,996	10,003,696	66,300	0.7
産業機械用部品への加工	4,071,997	4,049,765	22,231	0.5
鉄鋼用設備部品への加工	3,437,685	3,497,312	59,627	+1.7
その他の溶射加工	4,353,078	4,757,741	404,663	+9.3
国内子会社	1,977,718	2,111,327	133,609	+6.8
報告セグメント 計	23,910,475	24,419,844	509,368	+2.1
その他表面処理加工	1,572,896	1,736,686	163,790	+10.4
海外子会社	3,262,725	2,806,976	455,749	14.0
その他 計	4,835,621	4,543,662	291,959	6.0
合計	28,746,096	28,963,506	217,409	+0.8

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 TD処理加工(当連結会計年度の販売高841,637千円)、ZACコーティング加工(当連結会計年度の販売高471,849千円)、PTA処理加工(当連結会計年度の販売高423,198千円)については、当連結会計年度より、その合計額を「その他表面処理加工」として表示しております。
 3 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
東京エレクトロン株式会社 グループ	8,424,387	29.3	7,866,921	27.2

- 4 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、溶射加工を中核とする表面処理加工の専門メーカーとして「技術とアイデア」「若さと情熱」「和と信頼」「グッド・サービス」を社是として掲げ、株主、取引先、社員、地域社会等あらゆるステークホルダーとの良好な信頼関係を基礎に、表面処理皮膜が持つ省資源化、省力化、環境負荷の低減等の諸機能を通じて社会に貢献し、「高技術・高収益体質の内容の充実した企業グループ」を実現することを経営の基本理念としております。

当社は、「高技術・高収益体質の内容の充実した企業グループ」を実現するため、以下の6項目を経営の基本方針として掲げております。

好不況に関係なく収益を確保できる「全天候型経営」を目指す。

キャッシュ・フロー重視、バランスシート重視の経営により財務体質の強化を図る。

お客様のニーズに的確かつ迅速にお応えする「問題解決型企业」を目指す。

常に高品質の高機能皮膜を追求し提供する「研究開発主導型企业」を目指す。

ステークホルダーとの信頼関係をより一層強化するため、コーポレート・ガバナンスの充実、環境保全への継続的な取り組みを行う。

グループ企業の自主的運営を尊重すると共に、グループ全体での相乗効果を追求し、企業価値の向上と持続的かつ健全な成長を目指す。

(2) 中長期的な会社の経営戦略

目標とする経営指標を達成するため、営業・製造・研究開発の各部門が三位一体となって次の方針で臨んでおります。

収益の柱となる需要分野と顧客を数多く確保する。

特定の需要分野、顧客、製品に依存しすぎ、それらの浮き沈みにより当社の収益が大きな影響を受けることがないように、収益の柱となる分野および顧客等を常に数多く確保することに努めております。

「伸びる需要分野」「伸びる技術分野」に経営資源を集中させる。

将来の需要動向、技術動向を見据えて経営資源の集中を図ります。

好不況に関係なく、技術開発、製品開発、市場開拓を途切れず継続する。

当社は、特に研究開発に注力し、好不況に関係なく売上高比3%前後の研究開発投資を継続する方針です。

他社とは差別化した、中・小型製品を多数持ち、幅広い製品構成にする。

収益力向上のためには、価格競争に巻き込まれない独自の差別化製品を数多く開発することが不可欠と考えております。

(3) 目標とする経営指標

当社は、連結ベースで次の経営指標を達成することを目標としております。

売上高経常利益率：15%以上の安定的達成

自己資本純利益率(ROE)：15%以上の安定的達成

総資産経常利益率(ROA)：15%以上の安定的達成

(4) 経営環境及び対処すべき課題

欧州における政治不安や緊迫する朝鮮半島事情、米国新政権の政策運営の動向などによって、日本経済の先行きにも不安定かつ不透明な状況が継続すると予想されます。

こうした状況のもと当社グループは、半導体・FPD分野への対応を強化しつつ、他の成長分野にもバランス良く注力する「全天候型経営」を実現すべく、新市場の開拓を継続して行います。具体的には以下の諸施策を実施して、経営の安定と収益力の強化を図ってまいります。

新商品・新技術の創出と生産性の向上

人と設備の開発投資を強化するとともに、産官学連携および有力企業との技術交流・提携をさらに進め、表面改質のリーディングカンパニーとして顧客満足度の高いオンリーワン技術の創出に鋭意取り組みます。また、製造プロセスの自動化、効率化を進めるとともに、最先端産業で求められる認証や品質安定化に対応する管理体制を強化し、生産性の向上と生産技術のイノベーションを推進してまいります。

半導体・FPD分野以外での収益源の開拓

半導体・FPD分野での一層の強化とともに、新素材、環境・エネルギー、輸送機、医療分野など今後の市場拡大が期待される分野において、新市場の開拓と顧客価値の向上を図ってまいります。

海外での事業展開と子会社の技術力強化

欧米やアジアなど海外市場へ当社の技術・ブランドを拡大展開すべく、技術供与先との関係強化や新たな提携先の検討を進めてまいります。また、海外子会社へ加工ノウハウを確実に移管するとともに、トーカロを中心としたグループ会社間の連携を強化し、当社グループ全体の技術力や製品品質の向上に努める方針であります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、下記事項のうち、将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

(1) 半導体・F P D関連業界の需要変動に関わるリスク

当社グループの主力である溶射加工(単体)の中で、平成13年3月期以降、半導体・F P D製造装置分野の売上高が大幅に増加し、平成29年3月期には連結ベースの総売上高に占める割合は34.5%となっております。

当社におきましては、半導体・F P D製造装置への溶射皮膜の適用拡大について日々開発を進めており、現状では、半導体・F P D製造装置の新規設備投資の動向と、当社の半導体・F P D関連業界向けの売上動向とは、必ずしも連動しているとは言えないと考えられます。

また、既に納入された装置部品へのメンテナンス需要や非溶射部品の溶射化等の開拓を進め、半導体装置メーカー向けの受注変動による影響を最小限に止めるよう努力してまいりたいと考えております。

しかしながら、半導体・F P D関連業界の市況や、関連装置の需要動向が悪化した場合には、装置メーカー等からの受注減や値下げ要請によって、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。また、半導体・F P D製造装置が溶射を必要としない構造に変更された場合にも、当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

(2) 顧客による溶射加工の内製化リスク及び顧客工場の海外移転リスク

溶射加工は、当社のような専業者だけでなく、材料メーカーやメタリコン業者が手がけているほか、大手機械メーカー等が製造プロセスの一部として自社内で溶射加工を行っている場合もあります。これらの大手機械メーカー等は、生産能力的にオーバーフローした場合や、自社で技術対応できない場合、自社に当該溶射装置を保有しない場合などに当社をはじめとする溶射加工業者に委託しておりますが、これらの大手機械メーカー等が全面的に溶射加工を内製化したり、内製化の比率を高めたりした場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

また、当社グループは顧客から被加工品を受け入れて、当該被加工品に表面改質を行なっていることから、主要顧客の近隣に加工工場を設けるなど、顧客密着型の事業展開を行なっておりますが、主要顧客が生産拠点を海外等に移転させた場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(注) メタリコン業者とは、構造物等の防食目的で、亜鉛、アルミニウム及びそれらの合金溶射による加工を行なう企業をいいます。

(3) 特定の取引先(東京エレクトロン株式会社グループ)への依存リスク

当社グループの東京エレクトロン株式会社グループへの販売依存度(総売上高に占める同社グループへの売上高の割合)は高水準であるため(平成29年3月期については27.2%)、同社グループの半導体・F P D製造装置等の生産動向や同社グループからの受注動向が、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

技術供与契約

会社名	相手方の名称	国名	契約内容	契約期間
当社	東華隆(広州)表面改質技術有限公司	中国	溶射加工に関する技術供与	平成28年12月1日から平成33年12月31日まで
	東賀隆(昆山)電子有限公司	中国	溶射加工に関する技術供与	平成24年4月1日から平成34年12月31日まで
	漢泰国際電子股份有限公司	台湾	溶射加工に関する技術供与	平成23年6月17日から平成28年6月16日まで (以後1年毎の自動更新)
	NEIS & TOCALO (Thailand) CO.,Ltd.	タイ	溶射加工に関する技術供与	平成25年2月1日から平成30年12月31日まで
	PT. TANAKA MACHINERY	インドネシア	インドネシアにおける溶射加工に関する技術供与 (鉄鋼分野製品)	平成27年8月1日から平成30年7月31日まで
	漢泰科技股份有限公司	台湾	溶射加工に関する技術供与	平成22年4月1日から平成27年3月31日まで (以後1年毎の自動更新)
	上海宝钢工業技術服務有限公司 漢泰科技股份有限公司	中国 台湾	溶射加工に関する技術供与 (鉄鋼分野製品)	平成28年1月1日から平成30年12月31日まで
	大新メタライジング(株)	韓国	溶射加工に関する技術供与	平成20年6月2日から平成25年6月1日まで (以後1年毎の自動更新)
	第一W I N T E C H(株)	韓国	溶射加工に関する技術供与 (半導体製造装置部品)	平成22年10月21日から平成27年10月20日まで (以後1年毎の自動更新)
	ATS Techno Pvt. Ltd.	インド	溶射加工に関する技術供与 (鉄鋼分野製品)	平成25年3月1日から平成30年2月28日まで
	HAN TAI VIETNAM CO.,LTD.	ベトナム	溶射加工に関する技術供与	平成25年11月1日から平成30年10月31日まで
	NxEdge Inc.	米国	溶射加工に関する技術供与 (半導体製造装置部品)	平成22年3月23日から平成29年6月30日まで
			溶射加工に関する技術供与 (半導体製造装置部品)	平成24年7月1日から平成29年6月30日まで
	SMS Siemag Technology (Tianjin) Co., Ltd.	中国	中国における溶射加工に関する技術供与 (鉄鋼分野製品)	平成26年4月1日から平成29年3月31日まで
		中国	溶射加工に関する技術供与 (鉄鋼分野製品)	平成28年1月1日から平成30年12月31日まで
	SMS Technical Services LLC	米国	米国、カナダ、メキシコにおける溶射加工に関する技術供与 (鉄鋼分野製品)	平成26年4月1日から平成29年3月31日まで
	DUMA-BANDZINK GmbH.	ドイツ	ブラジル、ロシア、インドにおける溶射加工に関する技術供与 (鉄鋼分野製品)	平成23年5月16日から平成28年5月15日まで (以後1年毎の自動更新)
			EU諸国(英国除く)における溶射加工に関する技術供与 (鉄鋼分野製品)	平成26年10月1日から平成32年9月30日まで (以後1年毎の自動更新)
	Oerlikon Metco Coatings GmbH.	ドイツ	ヨーロッパにおける溶射加工に関する技術供与 (鉄鋼分野製品)	平成26年11月1日から平成29年10月31日まで

(注) 上記については、ロイヤリティーとして販売価格の一定率を受取るほか、イニシャルペイメントを受取っている場合もあります。

6 【研究開発活動】

当社は、「No.1 & Only 1 技術・サービスの創出で世界をリード」を研究開発の理念として、表面改質技術を軸とするOnly 1 コア技術の継続的な自主創造と、コア技術やその周辺技術を含め、独創的なNo.1 商品・サービスの開発を進めております。これにより表面改質技術をコアとする顧客満足度の高い総合ソリューションの徹底追及とその実現に努めております。

当社の研究開発は、将来を見通した先行研究と顧客ニーズに即応する商品開発の2本柱で推進しております。また、以下の3点を重点研究開発領域としております。このうち、成膜プロセス開発におきましては、従来の薄膜プロセス開発にレーザ応用技術を加え、新たに成膜プロセス開発としております。

溶射技術開発（一般産業機械・装置全般の部材開発、溶射プロセス開発）

半導体部品化技術（溶射技術等による半導体・FPD製造装置部品等の開発）

成膜プロセス開発（レーザ応用、PVD、CVD、DLC、TD、ZAC）、有機コーティング

当社グループの研究開発活動は溶射技術開発研究所が中心となって推進し、産学連携推進によるオープンイノベーションと人的交流によるグローバル化を推進することで、研究開発の加速と共に早期の事業化をめざしております。一方、即応性が求められる商品開発や生産技術的な課題につきましては、各工場の生産技術部門と溶射技術開発研究所とが相互に連携することで、顧客ニーズへの迅速な対応を行っています。なお、PVDやDLCなどの薄膜プロセスに関しては、連結子会社の日本コーティングセンター株式会社とも協調して研究開発を進めております。

当連結会計年度における当社グループの研究開発費の総額は8億34百万円であり、セグメントごとの主な内容は次のとおりであります。なお、当社グループの研究開発費につきましては、事業セグメントへの配分が困難なものも多いため、セグメントごとの研究開発費の金額は記載しておりません。

(1) 溶射加工(単体)

当社は先端技術のインフラ的要素をもつ素材やエネルギー分野において、従来から高機能部材に対する表面改質技術の適用開発を推し進めております。また近年では交通分野を新たなインフラ技術として注力しております。このうち、素材分野におきましては、鉄鋼・非鉄・石油化学製品のメーカーに対し、新しい溶射技術を適用することによって、より高品質な製品、より高い生産効率に寄与できるような皮膜開発を推進しています。具体的には、鉄鋼メーカーには熱処理炉内ロールや溶融亜鉛めっき浴中で使用される部材がこれにあたり、高機能鋼板の安定生産に寄与する皮膜開発を行っております。また、これらの技術は積極的なグローバル展開も期待されます。非鉄金属分野では、AI製品などの生産時に設備部品への金属凝着が生じない皮膜開発を進め、顧客とともに適用皮膜の最適化を進めております。石油化学業界におきましては、エチレン等の製造を行う塔槽類設備に対し、長期に渡り耐食・耐摩耗特性を維持する皮膜の開発を行っています。また、エネルギー分野におきましては、原子力発電所の運転休止に伴う火力発電所の稼働率向上を背景に、特に石炭焚きボイラ設備におきまして発電効率の向上、メンテナンス期間の延長要求に対し、新規皮膜開発や設備改善提案を行い、実機性能評価を継続実施しています。一方、ガスタービン発電機部材に関しましては、部材の高温酸化を防止するNi基超合金皮膜、部材を超高温から保護する遮熱セラミックス皮膜を中心に皮膜開発を継続しており、大学等との共同研究を通じて皮膜の機械的特性評価を進めています。一方、水力発電設備におきましても、現状の耐土砂摩耗コーティングの性能を凌駕する皮膜の開発を継続しています。その他、地熱発電や2次電池製造装置部材等々の部品、またその製造設備につきましても、顧客の要求に応じた皮膜開発を行っています。

一方、当社は半導体製造装置部品向けに耐プラズマ・コーティング技術の開発や静電チャックの開発を進めております。半導体製造装置であるプラズマエッチング装置部品の内面には耐プラズマ性に優れたアルミナ(Al₂O₃)やイットリア(Y₂O₃)などの酸化物セラミックコーティングが採用されていますが、年々細線化するナノレベルの配線幅に即したより高性能なコーティング技術が求められており、客先とも連携しながら、新たな材料開発または製造プロセスの開発、これに伴う評価技術開発を行っています。また、半導体部品化技術の一つとして、次世代静電チャック部材についても開発を行っており、客先の多様化する要求機能に応えるべく、コーティング材料や構造設計等の開発に取り組みながら、部品化試作を進めております。

(2) 国内子会社

国内子会社の日本コーティングセンター株式会社では、主にPVD(物理蒸着)処理被膜の開発を行っております。昨年度は、切削工具用PVD膜として「アクセル」、冷間鍛造用PVD膜として「フォージス」、非鉄金属加工用被膜として水素フリーDLC膜である「Tetra-スリック」を新たに開発しました。「アクセル」は高い放熱特性を特徴とする被膜であり、特にドライ加工分野で高い評価を得ています。「フォージス」は特に耐かじり特性に優れており、難加工材料であるステンレス鋼やインコネル材による冷間鍛造パンチ加工などで優れた効果を発揮します。また、「Tetra-スリック」はかじりつきが発生しやすいアルミ加工用切削工具向け被膜として展開を図っています。

(3) その他

当社では溶射加工以外に、TD処理加工やZACコーティング加工、PTA処理加工等、機能皮膜の継続的な商品開発を行っております。このうち、有機系・無機系薄膜技術開発では、医療系分野をターゲットとして、血液や生体材料が固着しないコーティング、親水性や撥水性または耐食性に優れた機能性薄膜の医療器具への適用開発を進めました。また昨年度は、新規成膜プロセスとしてレーザ技術を応用したコーティング開発に注力してまいりました。本技術は、すでに数年前から基礎研究を進めており、一部顧客にサンプル提供を行ってまいりましたが、これまでのコーティング性能を凌駕する良好な特性が得られたため、生産設備を増強するとともに、コーティングの適用拡大を進めました。具体的には、レーザクラディング技術による高機能厚膜の作製や評価と実機製品への展開、または溶射皮膜をレーザ溶融することで皮膜組織を緻密化し、密着性や耐摩耗性を大幅に改善した新皮膜の提供を開始しました。今後も引き続き、レーザ技術を応用したコーティング開発を積極的に進めてまいります。

(4) 特許出願状況等

当社グループは積極的な特許出願によって、開発技術および皮膜商品の権利化に努めております。当連結会計年度の実績は、特許出願27件、特許登録21件であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

当連結会計年度末における総資産は443億31百万円となり、前連結会計年度末に比べ63億39百万円増加いたしました。また、負債は120億78百万円(前連結会計年度末比31億56百万円の増加)、純資産は322億52百万円(前連結会計年度末比31億82百万円の増加)であります。

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は229億99百万円で、前連結会計年度末に比べ21億70百万円増加しております。主な要因は、有価証券の増加10億00百万円、受取手形及び売掛金の増加8億47百万円、現金及び預金の増加1億89百万円、であります。

なお、当連結会計年度末における流動比率(流動資産の流動負債に対する割合)は258.9%(前連結会計年度末は264.4%)で、当社グループの短期債務に対する支払能力は十分であると判断しております。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は213億31百万円で、前連結会計年度末に比べ41億69百万円増加しております。主な要因は、新本社の建設や千葉県に工場用地及び建物を取得したことなどによる有形固定資産の増加41億54百万円であります。

なお、当連結会計年度末における固定比率(固定資産の純資産に対する割合)は66.1%(前連結会計年度末は59.0%)、固定長期適合率(固定資産の長期資本(純資産と固定負債の合計)に対する割合)は60.2%(前連結会計年度末は57.0%)であり、当社グループの設備投資の現状に関しましては、問題のない水準であると判断しております。

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は88億83百万円で、前連結会計年度末に比べ10億06百万円増加しております。主な要因は、未払金の増加4億15百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加3億90百万円、支払手形及び未払費用の増加1億98百万円であります。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は31億94百万円で、前連結会計年度末に比べ21億49百万円増加しております。主な要因は、長期借入金の増加22億23百万円であります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は322億52百万円で、前連結会計年度末に比べ31億82百万円増加しております。これは主に、利益剰余金が29億30百万円増加したことによるものであります。

この結果、当連結会計年度末の1株当たり純資産は2,016円43銭(前連結会計年度末比188円73銭の増加)、自己資本比率は69.1%(前連結会計年度末比4.0ポイントの低下)となりました。今後も50%以上の自己資本比率を維持することで、健全な財務体質を確保していくことが、当社グループにとりまして重要であると判断しております。

(2) 経営成績の分析

(概要)

当連結会計年度におけるわが国経済は、好調な企業業績を背景として、設備投資が年度後半で10年ぶりに最高額を更新するなど順調に回復してきている一方で、中国等アジア新興国の景気減速、英国のEU離脱による欧州経済の動揺、米国新政権の政策運営の動向などによって、不安定かつ不透明な状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループの売上高は、世界的に活発な半導体・FPD業界の設備投資や増産が追い風となり、半導体・FPD分野向け加工が前期並みに高水準であったことや、製紙用大型ロールのメンテナンス特需を取り込んだことにより、前期比で増収を達成することが出来ました。収益面においては、効率的な増産対応を行うとともに一層のコスト削減に努め、高収益を確保することができました。

この結果、当連結会計年度における当社グループの業績は、売上高は前期比2億17百万円(0.8%)増の289億63百万円、営業利益は同8億40百万円(17.5%)増の56億45百万円、経常利益は同7億73百万円(15.4%)増の58億01百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同10億54百万円(35.0%)増の40億70百万円となりました。

(売上高)

当連結会計年度の売上高は289億63百万円(前期比0.8%増)となりました。その内訳は、溶射加工(単体)が223億08百万円(前期比1.7%増、構成比77.0%)、国内子会社が21億11百万円(前期比6.8%増、構成比7.3%)、その他が45億43百万円(前期比6.0%減、構成比15.7%)となっております。

なお、セグメント別売上高の状況に関しましては、1「業績等の概要」の(1)業績を参照願います。

(営業利益)

売上原価が184億27百万円、販売費及び一般管理費が48億90百万円となり、当連結会計年度の営業利益は56億45百万円(前連結会計年度の営業利益48億05百万円に比べ8億40百万円(17.5%)増)となりました。なお、売上高営業利益率は、前期比2.8ポイント増の19.5%であります。

(経常利益)

当連結会計年度における営業外損益(収益)は、純額で1億55百万円となりました。この結果、経常利益は58億01百万円(前連結会計年度の経常利益50億27百万円に比べ7億73百万円(15.4%)増)となりました。なお、売上高経常利益率は、前期比2.5ポイント増の20.0%であります。

(税金等調整前当期純利益)

当連結会計年度におきましては、特別利益として固定資産売却益5百万円、特別損失として固定資産除売却損2百万円等を計上いたしました結果、税金等調整前当期純利益は58億03百万円(前連結会計年度の税金等調整前当期純利益46億88百万円に比べ11億14百万円(23.8%)増)となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

当連結会計年度における実効税率(税金等調整前当期純利益に対する法人税等の比率)は26.5%で、当期純利益は42億63百万円となりました。非支配株主に帰属する当期純利益が1億93百万円となったため、親会社株主に帰属する当期純利益は40億70百万円(前連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益30億15百万円に比べ10億54百万円(35.0%)増)となりました。また、1株当たり当期純利益金額は267円80銭(前連結会計年度198円40銭)、自己資本当期純利益率(ROE)は13.9%(前連結会計年度11.2%)であります。

(3) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物は2億41百万円増加し、期末残高は80億68百万円となりました。

なお、当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは、次のとおりであります。

	平成25年 3月期	平成26年 3月期	平成27年 3月期	平成28年 3月期	平成29年 3月期
自己資本比率(%)	72.9	70.8	70.9	73.1	69.1
時価ベースの自己資本比率(%)	69.8	74.1	93.5	81.0	99.1
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	35.6	50.6	26.6	13.3	61.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	85.0	88.3	116.3	149.6	329.1

(注) 自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / 営業活動によるキャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業活動によるキャッシュ・フロー / 利払い

各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式控除後)により算出しております。

有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いにつきましては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、新規需要への対応、生産設備の合理化、品質の向上、コスト低減等を図るべく、設備の新設、拡充ならびに改修を継続的に実施しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は59億36百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 溶射加工(単体)

当連結会計年度は、千葉県に工場用地及び建物を取得したことや、新規溶射設備の購入など、総額28億18百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却、売却等はありません。

(2) 国内子会社

当連結会計年度は、日本コーティングセンター株式会社において、栃木県に新工場を建設したことなど、総額6億83百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却、売却等はありません。

(3) その他

当連結会計年度は、半導体・FPD分野の表面改質加工を行っている在外子会社の漢泰国際電子股份有限公司における新工場建設関連投資など、総額9億92百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却、売却等はありません。

(4) 全社共通

当連結会計年度は、提出会社の新本社(兵庫県神戸市中央区)の建設、溶射技術開発研究所における新規研究開発設備の購入など、総額14億42百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成29年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
本社(注)7 (神戸市東灘区 他)		本社機能	49,383		1,184,539 (6,782) [130]	11,086	1,211,499	2,456,508	38 (6)
溶射技術開発 研究所 (兵庫県明石市)		研究開発設備	100,080	106,552	50,294 (2,748)		161,897	418,825	34 (2)
東京工場 (千葉県船橋市)	溶射加工(単 体)、 その他(TD処 理加工)	溶射設備 TD処理設備 その他設備	834,113	537,161	1,431,420 (23,564)	2,889	631,211	3,436,796	126 (36)
宮城技術サー ビスセンター (宮城県大郷町)	溶射加工(単 体)	溶射設備 その他設備	148,100	79,301	176,692 (11,375)		4,262	408,357	20 (0)
名古屋工場 (愛知県東海市)	溶射加工(単 体)	溶射設備 その他設備	938,704	204,371	520,749 (5,338)	10,321	24,776	1,698,923	30 (4)
神戸工場 (神戸市西区 他)	その他(TD処 理加工、ZAC コーティング 加工)	TD処理設備 ZAC処理設備	794,790	66,245	675,536 (11,110) [2,011]		32,793	1,569,366	32 (6)
明石工場 (兵庫県明石市 他)	溶射加工(単 体)、 その他(PTA処 理加工)	溶射設備 PTA処理設備 その他設備	1,952,301	526,077	1,584,866 (45,180) [1,517]		146,653	4,209,898	184 (31)
水島工場 (岡山県倉敷市)	溶射加工(単 体)	溶射設備 その他設備	21,818	63,850	551,254 (15,872) [337]		18,160	655,084	30 (3)
北九州工場 (福岡県京都 苅田町)	溶射加工(単 体)	溶射設備 その他設備	530,818	163,281	589,129 (23,818)	1,401	41,646	1,326,277	57 (35)
神奈川営業所 他 (横浜市港北区 他)		その他設備	56		[50]		38	94	9 (3)
福利厚生施設 (兵庫県明石市 他)		寮・保養所	1,230		55,988 (1,324) [87]			57,219	()
その他 (神奈川県座 間市)		子会社向け賃 貸用土地			358,500 (3,953)			358,500	()

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 帳簿価額のうち「その他」は、「工具、器具及び備品」と「建設仮勘定」の合計であります。
4 上記の他、連結会社以外から賃借している設備の内容は、次のとおりであります。

設備の内容	セグメントの名称	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
営業車	主に溶射加工(単体)	40,961	71,131

- 5 上記土地の面積で [] 内は、賃借中のもので外数であります。
6 従業員数の()内は、臨時従業員数で外数であります。
7 本社移転用地(神戸市中央区)は、本社に含めて記載しております。

(2) 国内子会社

平成29年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
日本コー ティング センター (株)	本社 (神奈川県 座間市)他	国内子会 社	PVD処理 設備 その他 設備	674,059	474,662	125,549 (6,579) [7,919]	83,896	24,438	1,382,606	112 (69)

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 帳簿価額のうち「その他」は、「工具、器具及び備品」と「建設仮勘定」の合計であります。
4 上記土地の面積で[]内は、賃借中のもので外数であります。
5 従業員数の()内は、臨時従業員数で外数であります。

(3) 在外子会社

平成29年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
東華隆 (広州)表 面改質技 術有限公 司	本社 (中国広東 省広州市)	その他 (東華隆、 中国)	溶射設備 その他 設備	191,798	87,883	[11,538]		11,223	290,904	61 ()
東賀隆 (昆山)電 子有限公 司	本社 (中国江蘇 省昆山市)	その他 (東賀隆、 中国)	溶射設備 その他 設備	13,150	87,842	[4,297]		12,928	113,922	43 ()
漢泰国際 電子股份 有限公司	本社 (中華民国 台南市)	その他 (漢泰国際 電子、 台湾)	溶射設備 その他 設備		87,098	[30,615]		1,648,490	1,735,588	120 (44)
TOCALO USA, Inc.	本社 (米国カリ フォルニア 州)	その他 (TOCALO USA、 米国)	溶射設備 その他 設備	3,413		[1,717]		189,624	193,038	2 ()

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 帳簿価額のうち「その他」は、「工具、器具及び備品」と「建設仮勘定」の合計であります。
4 上記土地の面積で[]内は、賃借中のもので外数であります。
5 従業員数の()内は、臨時従業員数で外数であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設、除却等の計画は、以下のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

[会社名] 事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額(千円)		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
			総額	既支払額				
[漢泰国際電子] 永康工場 (中華民国台南市)	その他 (漢泰国際 電子、 台湾)	工場の新設	1,000,000	741,948	自己資金及 び借入資金	平成27年 5月	平成29年 3月	
[提出会社] 新本社 (神戸市中央区)		新本社の建設	1,800,000	1,208,816	借入資金	平成28年 10月	平成29年 8月	

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,960,000
計	40,960,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	15,800,000	15,800,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 あります。
計	15,800,000	15,800,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成17年5月20日 (注)	7,900,000	15,800,000		2,658,823		2,292,454

(注) 平成17年5月20日に、平成17年3月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主に
 対し、所有株式数を1株につき2株の割合をもって分割いたしました。

(6) 【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		33	33	32	157	5	4,019	4,279	
所有株式数 (単元)		34,487	2,754	750	58,674	14	61,290	157,969	3,100
所有株式数 の割合(%)		21.83	1.75	0.47	37.14	0.01	38.80	100.00	

(注) 1 自己株式601,178株は、「個人その他」に6,011単元、「単元未満株式の状況」に78株含まれております。

2 「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が、44単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,985	12.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町二丁目11番3号	931	5.89
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	845	5.35
トーカロ従業員持株会	神戸市東灘区深江北町四丁目13番4号	810	5.13
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	799	5.06
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	465	2.95
西條 久美子	神戸市東灘区	259	1.64
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS-UNITED KINGDOM (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	254	1.61
広瀬 眞理子	兵庫県伊丹市	238	1.51
RBC IST 15 PCT NON LENDING ACCOUNT - CLIENT ACCOUNT (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	7TH FLOOR, 155 WELLINGTON STREET WEST TORONTO, ONTARIO, CANADA, M5V 3L3 (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	224	1.42
計		6,813	43.12

- (注) 1 上記のほか、自己株式601千株(3.80%)があります。
- 2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数として当社が把握しているものは次のとおりであります。
- | | |
|----------------------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 1,985千株 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 | 931千株 |
- 3 フィデリティ投信株式会社、エフエムアールエルエルシーの2社による連名の大量保有報告書(変更報告書)が平成25年12月9日付で提出され、平成25年12月2日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社としては当事業年度末における所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」では考慮しておりません。
- なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであり、合わせて平成25年12月2日に2社間の共同保有関係が解消された旨の報告を受けております。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号	41	0.26
エフエムアール エルエルシー (FMR LLC)	245 Summer Street, Boston, Massachusetts 02210, USA	1,784	11.29

- 4 ノルウェー銀行による大量保有報告書が平成26年10月23日付で提出され、平成26年10月16日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社としては当事業年度末における所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」では考慮していません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
ノルウェー銀行	Bankplassen 2, P.O. Box 1179 Sentrum, N-0107 Oslo, Norway	790	5.01

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 601,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,195,800	151,958	
単元未満株式	普通株式 3,100		
発行済株式総数	15,800,000		
総株主の議決権		151,958	

(注) 1 単元未満株式数には当社所有の自己株式78株が含まれております。

- 2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,400株(議決権44個)含まれております。

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) トーカロ株式会社	神戸市東灘区深江北町 四丁目13番4号	601,100		601,100	3.80
計		601,100		601,100	3.80

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	70	181
当期間における取得自己株式	64	215

(注) 当期間における取得自己株式には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は、確認が困難であるため、含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 ()				
保有自己株式数	601,178		601,242	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は、確認が困難であるため、含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要施策とし、業績に裏付けられた成果の配分を通じて、安定的な配当の継続を重視するとともに、積極的に株主還元の充実を図っていく所存であります。

また、当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本としており、これらの決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、1株当たり85円(うち中間配当37円50銭)といたしました。この結果、当事業年度の連結配当性向は31.7%となりました。

内部留保資金につきましては、事業の発展・拡大を通じた中長期的な株式価値の向上に資するためにも、事業の成長、企業体質の強化に必要不可欠な研究開発や設備投資の原資として充当してまいります。

なお、当社は「毎年9月30日を基準日として、取締役会の決議をもって、株主または登録株式質権者に対し、中間配当金として剰余金の配当を行うことができる」旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成28年10月31日 取締役会決議	569,958	37.50
平成29年6月23日 定時株主総会決議	721,944	47.50

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	1,666	1,805	2,423	2,961	3,085
最低(円)	1,050	1,270	1,517	1,753	1,601

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
最高(円)	2,376	2,554	2,672	2,627	2,820	3,085
最低(円)	2,192	2,169	2,478	2,407	2,594	2,616

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性15名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長		町垣 和夫	昭和26年5月11日	昭和49年8月 平成7年7月 平成11年9月 平成17年4月 平成17年6月 平成19年6月 平成25年4月 平成25年6月 当社入社 東京工場長 明石工場長 製造本部付部長 取締役製造副本部長 代表取締役社長 漢泰国際電子股份有限公司董事長 (現任) 代表取締役会長(現任)	(注)3	70,300
代表取締役 社長		三船 法行	昭和30年5月3日	昭和53年4月 平成13年4月 平成17年4月 平成19年6月 平成21年6月 平成23年6月 平成24年6月 平成25年6月 当社入社 北九州工場長 明石工場長 取締役明石工場長 取締役製造副本部長 漢泰国際電子股份有限公司董事長 常務取締役製造副本部長 代表取締役社長(現任)	(注)3	37,700
専務取締役	管理本部長	木村 一郎	昭和26年6月5日	昭和51年4月 平成17年6月 平成18年1月 平成18年4月 平成19年6月 平成20年4月 平成21年6月 平成23年4月 平成23年8月 平成24年6月 平成25年6月 平成26年4月 ㈱東海銀行(現、㈱三菱東京UFJ銀行)入社 当社経理部長(出向) 当社に転籍 経営企画室長 取締役経営企画室長 取締役管理副本部長兼経営企画室長 取締役管理本部長兼経営企画室長 取締役管理本部長 取締役管理本部長兼経理部長 常務取締役管理本部長兼経理部長 専務取締役管理本部長兼経理部長 専務取締役管理本部長(現任)	(注)3	30,500
常務取締役	製造本部長	久野 博史	昭和29年12月22日	昭和54年12月 平成13年4月 平成14年6月 平成18年7月 平成21年6月 平成25年4月 平成25年6月 平成26年10月 当社入社 明石工場製造部長 東京工場製造部長 明石工場製造部長 取締役明石工場長 取締役 取締役製造本部長 常務取締役製造本部長(現任)	(注)3	21,600
常務取締役	営業本部長	黒木 信之	昭和29年11月21日	昭和53年4月 平成13年4月 平成17年4月 平成23年4月 平成23年5月 平成23年6月 平成25年6月 平成28年6月 当社入社 東京工場営業部長 東京工場長 海外準備室長 東賀隆(昆山)電子有限公司董事長 取締役 取締役営業副本部長 常務取締役営業本部長(現任)	(注)3	26,500
常務取締役	管理副本部長	樽見 哲男	昭和29年2月9日	昭和51年4月 平成18年12月 平成19年5月 平成21年6月 平成26年4月 平成26年6月 平成28年4月 平成29年6月 日本楽器製造(株)(現、ヤマハ(株))入社 ヤマハ(株)退職 当社入社 総務部長 取締役管理副本部長兼総務部長 取締役管理副本部長 取締役管理副本部長兼経営企画部長 取締役管理副本部長 常務取締役管理副本部長(現任)	(注)3	14,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	明石工場長	進 英 俊	昭和34年 3月 5日	昭和57年 4月 平成21年 4月 平成21年10月 平成25年 4月 平成27年 6月	当社入社 北九州工場部長 明石工場製造部長 明石工場長 取締役明石工場長(現任)	(注) 3	15,600
取締役		千 葉 祐 二	昭和34年 5月29日	昭和60年 4月 平成 4年11月 平成14年 6月 平成17年 7月 平成24年 6月 平成26年 6月 平成29年 6月	住友金属鉱山(株)入社 日本コーティングセンター(株)(出向) 同取締役本社工場長(出向) 住友金属鉱山(株)より当社転籍 日本コーティングセンター(株)(出向) 同常務取締役本社工場長(出向) 同代表取締役社長(出向) 当社取締役(現任)	(注) 3	3,000
取締役 (非常勤)		山 崎 優	昭和24年 7月21日	昭和56年 4月 昭和62年 4月 平成23年 6月	弁護士登録 鎌倉法律事務所入所 梅田総合法律事務所を共同で設立 パートナー(現任) 当社取締役(現任)	(注) 3	
取締役 (非常勤)		吉 葉 正 行	昭和26年 2月28日	昭和60年 4月 平成11年 4月 平成17年 4月 平成18年 4月 平成28年 3月 平成28年 6月	工学博士(東京都立大学) 東京都立大学大学院工学研究科教授(機械工学専攻) 首都大学東京都市教養学部教授(理工学系機械工学コース) 首都大学東京大学院理工学研究科教授(機械工学専攻) 首都大学東京退職 当社取締役(現任)	(注) 3	
取締役 (非常勤)		丹 波 農 一	昭和21年 1月18日	昭和46年 4月 平成12年 4月 平成16年 4月 平成18年 6月 平成21年 6月 平成25年 6月 平成29年 6月	川崎重工業(株)入社 Kawasaki Motors Manufacturing Corp., U.S.A. 社長(出向) 川崎重工業(株)執行役員 同代表取締役常務 兼執行役員 川崎重工業(株)顧問 川崎重工業(株)退職 当社取締役(現任)	(注) 3	200
監査役 (常勤)		北 秋 廣 幸	昭和27年 8月 1日	昭和51年 4月 平成 5年 4月 平成19年 6月 平成25年 6月 平成28年 6月	当社入社 明石工場営業部長 取締役営業副本部長 常務取締役営業本部長 常勤監査役(現任)	(注) 4	43,600
監査役 (常勤)		吉 田 敏 彦	昭和30年 8月 6日	昭和53年 4月 平成16年 4月 平成19年 6月 平成19年10月 平成20年 6月 平成21年 4月 平成24年 6月 平成28年 6月	(株)太陽神戸銀行(現、(株)三井住友銀行)入行 (株)三井住友銀行神戸法人営業第三部長 山陽特殊製鋼(株)経営企画部部長(出向) 同監査部長(出向) 同社へ転籍 同総務部長 同常勤監査役 当社常勤監査役(現任)	(注) 4	100

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)		小山 俊彦	昭和32年6月20日	昭和55年4月 平成17年4月 平成23年4月 平成25年4月 平成26年4月 平成29年4月 平成29年6月	当社入社 北九州工場長 名古屋工場長 北九州工場長 総務部長 管理本部付部長 常勤監査役(現任)	(注)4	15,400
監査役		中田 琢也	昭和27年1月21日	昭和45年4月 平成19年7月 平成22年7月 平成24年7月 平成24年8月 平成27年6月	大阪国税局入局 天王寺税務署長 住吉税務署長 同退官 税理士登録 中田琢也税理士事務所開設(現任) 当社監査役(現任)	(注)4	400
計							278,900

- (注) 1 取締役 山崎 優、吉葉 正行及び丹波 晨一は、社外取締役であります。
 2 監査役 吉田 敏彦及び中田 琢也は、社外監査役であります。
 3 取締役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
 4 監査役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

(企業統治の体制の概要)

当社は監査役制度を採用しており、取締役会と監査役・監査役会により、取締役の職務執行の監督および監査を行っております。

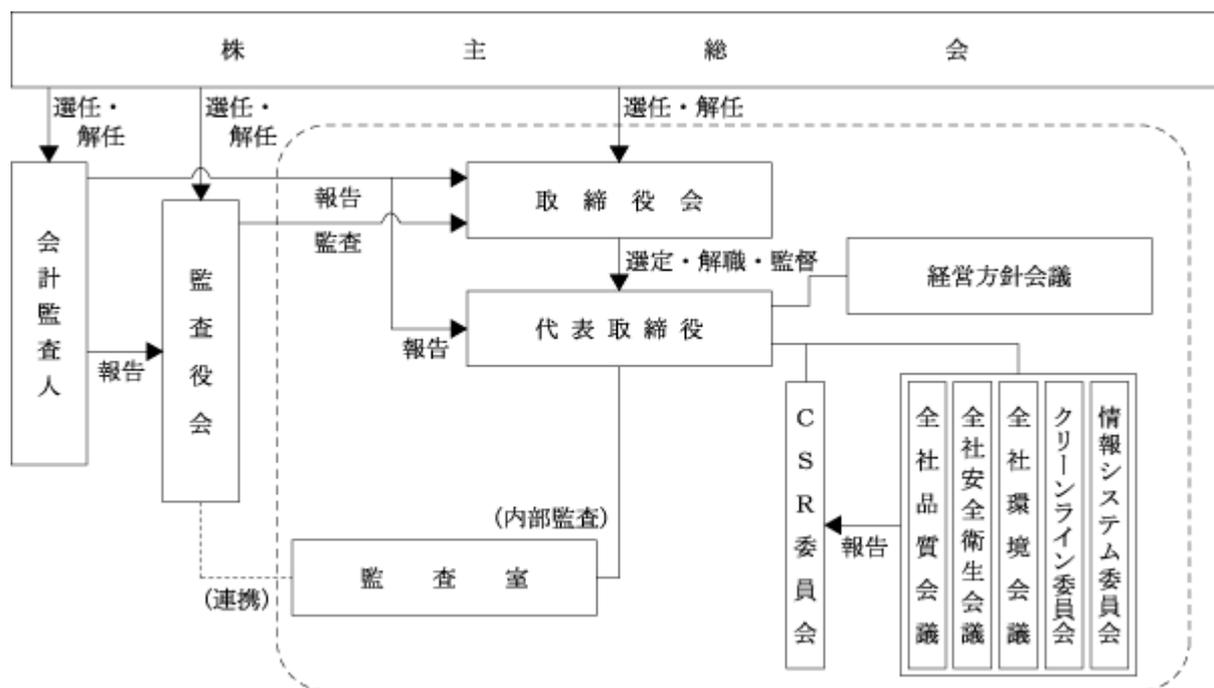
当社の取締役会は、有価証券報告書提出日現在、11名の取締役で構成され、比較的少人数のため活発な議論が可能となっております。このうち3名は社外取締役で、外部者の立場から経営に対する適切な指導と意見を期待しております。取締役会は毎月1回中旬に開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。また、同一の構成員による経営方針会議を開催し、重要な経営問題につき審議ならびに討議を行っております。日常的には、全社の予算会議、営業会議、製造会議、その他の社内重要会議に、ほとんど全ての取締役が出席し意見交換を行っており、相互の意思疎通と認識の統一を図っております。

当社の監査役会は、有価証券報告書提出日現在、社内監査役2名と社外監査役2名の計4名で構成されております。監査役会は原則として月1回の頻度で開催され、法令および当社監査役会規程に定める職務を遂行しております。各監査役は、取締役会および経営方針会議に出席するほか、3名の常勤監査役（うち1名は社外監査役）は社内のその他の重要会議（予算会議、営業会議、製造会議等）にも出席し、取締役の職務の執行状況につき、適法性、妥当性等の観点から監視するとともに、必要に応じて意見を述べております。

なお、有価証券報告書提出日現在における当社の会計監査人は、PwC京都監査法人であります。

また、当社は株主総会を最高の決議機関だけでなく、株主の皆様が当社に対する理解を深めていただく重要な機会と考え、総会終了後においても株主との対話を歓迎する姿勢で臨んでおります。この観点から、例年、定時株主総会は集中日を避けて開催しております。

なお、当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要図は、次のとおりであります。



(企業統治の体制を採用する理由)

当社は監査役会設置会社であり、かつ社外役員を選任しております。社外監査役を含む監査体制が経営監視機能として有効であり、また、当社の現状において現体制が適正であると判断しております。

また、当社は「企業は社会の構成員であり、社会の公器である」との認識に立ち、経営の透明性を確保し、株主・取引先・社員・地域社会等あらゆるステークホルダーとの信頼関係を一層強化しつつ、グループ全体として企業価値の向上と持続的かつ健全な成長を成し遂げ、表面改質加工事業を通じて社会に貢献することがコーポレート・ガバナンスの基本であり、経営の最重要課題の一つと考えております。これらの課題に対応していくためにも、現在のコーポレート・ガバナンス体制をより一層充実させていくことが当社にとって望ましいと認識しております。

(内部統制システムの整備の状況)

当社は、コンプライアンス体制の整備と実施のために、企業の行動指針およびコンプライアンス規程を制定し、管理本部長を委員長とするCSR委員会を設置しております。このCSR委員会が中心となり、当社ならびに当社構成員に対して、法令・定款遵守の徹底を図っております。

また、各種規程の整備や職務分掌の明確化等を通じて、業務の有効性および効率性、財務報告の信頼性を確保する体制の構築・運用に努めております。

(リスク管理体制の整備の状況)

当社のリスク管理体制は、CSR委員会が組織横断的リスク管理の状況を監視し、全社的対策を検討することを基本としております。

コンプライアンス、反社会的勢力への対応、環境、災害、品質、情報セキュリティ、与信管理、投融資および輸出管理等に係るリスクについては、それぞれの担当部署にて規則・ガイドライン・マニュアル等を作成し、周知徹底を図っております。なお、不測の事態が生じた場合は、災害対策規程に則り、ただちに災害対策本部を設置し、対策を実施することとなっております。

また、上記以外に新たに生じたリスクについては、取締役会においてすみやかに対応責任者となる取締役を定め、適切な対応を図る体制を整備することとしております。

(提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況)

当社トップおよびグループ各社トップの連絡体制を整備し、情報交換および方針決定を行い適正な運営に努めております。また、当社とグループ各社との間における不適切な取引または会計処理を防止するため、管理本部とグループ各社の内部監査部門が十分な情報交換を行い、必要ある時は取締役会に報告することとしております。

(責任限定契約の内容の概要)

当社と社外取締役および監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

内部監査及び監査役監査の状況

当社は、内部監査部門として、社長直属の監査室を設置し、2名の専従者を配置しております。監査室は監査計画に従い、原則として年1巡方式により各組織の内部監査を実施し、改善点の指摘とそれに対する改善状況の確認を行い、業務の適正な運営に努めております。監査内容は、法令および社内諸規程の遵守状況にとどまらず、業務の効率運営、環境、安全衛生、品質管理等の状況確認と改善指示等、多岐にわたっております。

また、当社は監査役制度を採用し、社内監査役2名(常勤)と社外監査役2名(うち1名は常勤)の計4名で構成される監査役会を設置しております。監査役監査につきましては、監査役会において策定された年度監査方針・監査計画に基づき、会計監査の相当性監査および業務監査が実施されております。さらに、常勤監査役は監査室とも連携しながら、日常的な業務遂行の状況把握を行っており、随時経営トップに対し意見具申を行っております。なお、社外監査役中田琢也氏は、税理士の資格を有しております。

監査役は会計監査人と定期的に会合を持ち、会計監査人から監査計画、監査結果等について詳細な説明を受けるとともに、自己の見解等について積極的に意見交換・情報交換を行っております。また、監査役は監査役監査の目的達成に資するため、監査室から内部監査結果等について定期的に報告を受け、意見交換・情報交換を行っております。さらに、必要に応じて監査室へ調査依頼を行い、その結果を監査役監査の参考としております。

監査役は、内部統制システムの状況を監視・検証しており、特に、財務報告に係る内部統制の整備および運用状況については、監査室メンバーが中心となって実施された評価の結果や、会計監査人による監査の状況について、適宜、報告・説明を受け、情報を共有しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は3名、社外監査役は2名であります。なお、一部の社外取締役が「5 役員の状況」に記載のとおり当社株式を保有していることを除き、各社外取締役および各社外監査役と当社との間には、人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係(社外取締役又は社外監査役が他の会社等の役員若しくは使用人である、又は役員若しくは使用人であった場合における当該他の会社等と当社の関係を含む)はありません。

社外取締役山崎優氏は長年にわたる弁護士としての幅広い経験と見識を有しており、取締役会において、弁護士としての専門的見地から当社の経営全般ならびに当社のコンプライアンス体制の構築・維持についての意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。社外取締役吉葉正行氏は首都大学東京大学院教授としての機械工学分野での研究歴を有し、同分野の専門家としての長年の経験と知見により、メーカーのものづくりや技術開発の観点等から取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また、社外取締役丹波農一氏は技術分野を中心とした職務経歴のみならず、アメリカ企業の社長、上場企業の役員を歴任して培われた経営に関する高い見識や幅広い経験を有していることから社外取締役の職務の適切な遂行が期待できると考えております。なお、当社の社外取締役は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

当社の社外監査役は全員、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員であり、経営に対する客観的・中立的な見地から公正な意見の表明を行い、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

社外取締役および社外監査役がその機能と役割を十分に果たすためには、当社からの独立性が重要な要件になると考えております。当社は、社外取締役および社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針を定めておりませんが、選任にあたっては東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

また、社外取締役および社外監査役の選任状況については、当社の現状の経営規模からみて適正であると判断しております。

なお、社外取締役または社外監査役による監督または監査が効果的に実施されるべく、取締役、監査役、会計監査人、監査室等との円滑なコミュニケーションを図り、社外取締役および社外監査役に対して、内部統制システムの状況や監査に係る情報が適時適切に伝達されるよう努めております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	260,568	260,568				10
監査役 (社外監査役を除く。)	37,724	37,724				3
社外役員	26,874	26,874				6

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

総額(千円)	対象となる役員の 員数(名)	内容
61,017	5	使用人兼務取締役に対する使用人分給与(賞与を含む)であります。

ニ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の取締役および監査役の報酬等の額については、「役員報酬規程」に基づき、株主総会の決議により定められた報酬総額の上限額(取締役：年額300,000千円、監査役：年額100,000千円)の範囲内において決定しております。

取締役の報酬は、常勤・非常勤の別を含めた各取締役の職務・職責および会社の業績等を斟酌し、取締役会で承認された方法により決定しており、監査役の報酬は、監査役の協議により決定しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 13銘柄

貸借対照表計上額の合計額 191,814千円

□ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
 (前事業年度)
 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
山陽特殊製鋼(株)	52,000	26,728	営業上の取引関係等の円滑化のため
住友重機械工業(株)	42,000	19,530	営業上の取引関係等の円滑化のため
(株)IHI	52,000	12,376	営業上の取引関係等の円滑化のため
JFEホールディングス(株)	7,300	11,066	営業上の取引関係等の円滑化のため
丸一鋼管(株)	3,400	10,489	営業上の取引関係等の円滑化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	17,000	8,865	金融取引に係る取引先としての関係維持強化のため
日新製鋼(株)	4,000	5,252	営業上の取引関係等の円滑化のため
住友電気工業(株)	1,600	2,190	営業上の取引関係等の円滑化のため
(株)神戸製鋼所	10,000	990	営業上の取引関係等の円滑化のため
大王製紙(株)	1,000	949	営業上の取引関係等の円滑化のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	100	341	金融取引に係る取引先としての関係維持強化のため

(注) 住友重機械工業(株)以下の銘柄は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ですが、保有する特定投資株式の全銘柄について記載しております。なお、みなし保有株式はありません。

(当事業年度)
 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
住友重機械工業(株)	42,000	32,592	営業上の取引関係等の円滑化のため
山陽特殊製鋼(株)	52,000	30,732	営業上の取引関係等の円滑化のため
(株)IHI	52,000	18,252	営業上の取引関係等の円滑化のため
JFEホールディングス(株)	7,300	13,932	営業上の取引関係等の円滑化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	17,000	11,894	金融取引に係る取引先としての関係維持強化のため
丸一鋼管(株)	3,400	10,761	営業上の取引関係等の円滑化のため
日新製鋼(株)	4,000	5,856	営業上の取引関係等の円滑化のため
住友電気工業(株)	1,600	2,953	営業上の取引関係等の円滑化のため
大王製紙(株)	1,000	1,423	営業上の取引関係等の円滑化のため
(株)神戸製鋼所	1,000	1,016	営業上の取引関係等の円滑化のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	100	404	金融取引に係る取引先としての関係維持強化のため

(注) (株)IHI以下の銘柄は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ですが、保有する特定投資株式の全銘柄について記載しております。なお、みなし保有株式はありません。

八 保有目的が純投資目的である投資株式
 該当事項はありません。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、PwC京都監査法人所属の松永幸廣氏、浦上卓也氏の2名であります。また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士2名、その他(公認会計士試験合格者等)9名であります。

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項及びその理由

イ 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議をもって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ロ 取締役および監査役の責任免除

当社は、取締役および監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して期待される役割を果たしうる環境を整備するため、会社法第426条第1項の規定に基づき、任務を怠ったことによる取締役(取締役であった者を含む)および監査役(監査役であった者を含む)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議をもって免除することができる旨を定款で定めております。

ハ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定に基づき、毎年9月30日を基準日として、取締役会の決議をもって、株主または登録株式質権者に対し、中間配当金として剰余金の配当を行うことができる旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってする旨および累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもってする旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	29,000	10	29,000	
連結子会社				
計	29,000	10	29,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社は、海外出向者に係る税務申告のための所得証明業務に対し、対価を支払っております。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査公認会計士等に対する監査報酬は、当社の規模・特性や監査予定日数等に応じた適切な水準となるよう、監査役会の同意を得て、取締役会にて決定することとしております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の財務諸表について、PwC京都監査法人により監査を受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第65期連結会計年度の連結財務諸表及び第65期事業年度の財務諸表 新日本有限責任監査法人

第66期連結会計年度の連結財務諸表及び第66期事業年度の財務諸表 PwC京都監査法人

また、PwC京都監査法人は、平成28年12月1日付をもって、京都監査法人から名称を変更しております。

当該異動について臨時報告書を提出しております。臨時報告書に記載した事項は次のとおりです。

(1) 異動に係る監査公認会計士等の名称

選任する監査公認会計士等の名称

京都監査法人

退任する監査公認会計士等の名称

新日本有限責任監査法人

(2) 異動の年月日

平成28年6月24日(第65回定時株主総会開催予定日)

(3) 退任する監査公認会計士等が直近において監査公認会計士等となった年月日

平成27年6月24日

(4) 退任する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等又は内部統制監査報告書における意見等に関する事項

該当事項はありません。

(5) 異動の決定又は異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人である新日本有限責任監査法人は、平成28年6月24日開催予定の当社第65回定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。これに伴い、当社監査役会は、現会計監査人の継続監査年数を考慮し、新たな視点での監査が期待できることに加え、当社の会計監査人に求められる専門性、独立性および適切性を有し、当社の会計監査が適正かつ妥当に行われることを確保する体制を備えているものと判断し、京都監査法人を新たな会計監査人として選任するものであります。

(6) 上記(5)の理由及び経緯に対する監査報告書等又は内部統制監査報告書の記載事項に係る退任する監査公認会計士等の意見

特段の意見はない旨の回答を得ております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しており、同財団等が開催する研修会に積極的に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,197,444	8,386,587
受取手形及び売掛金	9,137,867	9,985,529
有価証券	1,000,000	2,000,000
仕掛品	835,839	838,016
原材料及び貯蔵品	1,015,394	1,099,425
繰延税金資産	488,742	499,162
その他	226,566	241,452
貸倒引当金	72,345	50,532
流動資産合計	20,829,510	22,999,641
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	11,808,582	12,170,928
減価償却累計額	5,483,552	5,923,727
建物及び構築物（純額）	6,325,029	6,247,200
機械装置及び運搬具	15,929,451	16,948,920
減価償却累計額	13,608,485	14,464,591
機械装置及び運搬具（純額）	2,320,966	2,484,328
土地	6,003,081	7,304,522
リース資産	539,379	623,500
減価償却累計額	518,857	513,904
リース資産（純額）	20,521	109,596
建設仮勘定	1,199,970	3,827,874
その他	1,650,972	1,853,250
減価償却累計額	1,369,700	1,521,478
その他（純額）	281,272	331,771
有形固定資産合計	16,150,842	20,305,293
無形固定資産		
のれん	13,548	-
その他	83,858	115,281
無形固定資産合計	97,406	115,281
投資その他の資産		
投資有価証券	1 682,101	1 684,251
繰延税金資産	100,143	112,074
その他	166,440	145,829
貸倒引当金	34,238	30,989
投資その他の資産合計	914,446	911,165
固定資産合計	17,162,695	21,331,741
資産合計	37,992,205	44,331,382

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,035,780	3,206,643
短期借入金	² 165,060	² 150,840
1年内返済予定の長期借入金	339,284	730,239
リース債務	7,448	23,748
未払金	491,034	906,132
未払費用	1,639,924	1,838,778
未払法人税等	922,297	964,966
賞与引当金	835,734	890,512
その他	440,398	172,067
流動負債合計	7,876,961	8,883,929
固定負債		
長期借入金	100,044	2,323,636
リース債務	16,633	95,485
繰延税金負債	116,370	29,328
退職給付に係る負債	790,499	724,326
その他	21,486	21,809
固定負債合計	1,045,033	3,194,586
負債合計	8,921,995	12,078,515
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,658,823	2,658,823
資本剰余金	2,293,504	2,293,504
利益剰余金	23,186,505	26,116,841
自己株式	773,418	773,599
株主資本合計	27,365,415	30,295,569
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,342	42,629
為替換算調整勘定	396,234	309,167
その他の包括利益累計額合計	413,577	351,796
非支配株主持分	1,291,218	1,605,500
純資産合計	29,070,210	32,252,866
負債純資産合計	37,992,205	44,331,382

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上高	28,746,096	28,963,506
売上原価	1, 2 19,019,525	1, 2 18,427,510
売上総利益	9,726,571	10,535,995
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	290,697	288,250
貸倒引当金繰入額	12,813	23,103
役員報酬	306,196	328,138
人件費	1,857,079	1,974,853
賞与引当金繰入額	278,699	298,263
退職給付費用	174,738	18,146
旅費交通費及び通信費	352,317	351,531
減価償却費	52,214	59,855
のれん償却額	56,255	12,407
研究開発費	2 740,255	2 718,932
その他	799,746	862,867
販売費及び一般管理費合計	4,921,015	4,890,142
営業利益	4,805,555	5,645,853
営業外収益		
受取利息及び配当金	24,484	13,016
受取ロイヤリティー	142,162	127,550
受取技術料	61,766	17,314
スクラップ売却益	26,577	21,155
その他	38,863	31,746
営業外収益合計	293,855	210,783
営業外費用		
支払利息	26,073	14,966
支払手数料	7,219	7,453
技術者派遣費用	8,424	7,063
為替差損	28,174	14,889
その他	1,538	10,829
営業外費用合計	71,429	55,202
経常利益	5,027,981	5,801,434
特別利益		
固定資産売却益	3 2,528	3 5,134
特別利益合計	2,528	5,134
特別損失		
固定資産除売却損	4 14,615	4 2,386
減損損失	5 323,527	-
ゴルフ会員権評価損	2,812	945
保険解約損	562	-
特別損失合計	341,518	3,331
税金等調整前当期純利益	4,688,991	5,803,236
法人税、住民税及び事業税	1,647,349	1,656,240
法人税等調整額	180,315	116,420
法人税等合計	1,467,033	1,539,819
当期純利益	3,221,957	4,263,417
非支配株主に帰属する当期純利益	206,444	193,164
親会社株主に帰属する当期純利益	3,015,513	4,070,252

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
当期純利益	3,221,957	4,263,417
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	37,990	25,287
為替換算調整勘定	119,686	96,497
その他の包括利益合計	¹ 157,677	¹ 71,210
包括利益	3,064,280	4,192,206
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,898,910	4,008,471
非支配株主に係る包括利益	165,369	183,734

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,658,823	2,293,504	21,272,912	773,418	25,451,821
当期変動額					
剰余金の配当			1,101,919		1,101,919
親会社株主に帰属する当期純利益			3,015,513		3,015,513
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			1,913,593		1,913,593
当期末残高	2,658,823	2,293,504	23,186,505	773,418	27,365,415

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	55,332	474,847	530,180	1,169,671	27,151,673
当期変動額					
剰余金の配当					1,101,919
親会社株主に帰属する当期純利益					3,015,513
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	37,990	78,612	116,603	121,546	4,943
当期変動額合計	37,990	78,612	116,603	121,546	1,918,536
当期末残高	17,342	396,234	413,577	1,291,218	29,070,210

当連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,658,823	2,293,504	23,186,505	773,418	27,365,415
当期変動額					
剰余金の配当			1,139,916		1,139,916
親会社株主に帰属する当期純利益			4,070,252		4,070,252
自己株式の取得				181	181
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			2,930,335	181	2,930,154
当期末残高	2,658,823	2,293,504	26,116,841	773,599	30,295,569

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	17,342	396,234	413,577	1,291,218	29,070,210
当期変動額					
剰余金の配当					1,139,916
親会社株主に帰属する当期純利益					4,070,252
自己株式の取得					181
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	25,287	87,067	61,780	314,282	252,502
当期変動額合計	25,287	87,067	61,780	314,282	3,182,656
当期末残高	42,629	309,167	351,796	1,605,500	32,252,866

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,688,991	5,803,236
減価償却費	1,560,792	1,703,160
のれん償却額	56,255	12,407
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,894	23,127
賞与引当金の増減額(は減少)	71,302	56,654
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	288,061	66,173
受取利息及び受取配当金	24,484	13,016
支払利息	26,073	14,966
固定資産除売却損益(は益)	12,087	2,747
減損損失	323,527	-
保険解約損益(は益)	562	-
ゴルフ会員権評価損	2,812	945
売上債権の増減額(は増加)	585,665	888,134
たな卸資産の増減額(は増加)	53,614	107,434
仕入債務の増減額(は減少)	146,041	173,000
未払費用の増減額(は減少)	130,845	212,218
その他	131,130	16,377
小計	6,331,497	6,892,332
利息及び配当金の受取額	27,092	13,462
利息の支払額	30,311	15,917
法人税等の支払額	1,794,423	1,651,927
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,533,855	5,237,949
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2,742,617	611,202
定期預金の払戻による収入	4,800,276	643,909
有価証券の取得による支出	-	2,000,000
有価証券の償還による収入	2,000,000	1,000,000
有形固定資産の取得による支出	3,588,351	5,511,788
有形固定資産の売却による収入	5,726	6,140
無形固定資産の取得による支出	3,867	55,382
投資有価証券の取得による支出	1,360,823	-
投資有価証券の償還による収入	-	30,000
保険積立金の解約による収入	1,193	2,911
その他	6,558	41,754
投資活動によるキャッシュ・フロー	895,022	6,537,165
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	394,215	-
長期借入れによる収入	192,300	3,268,500
長期借入金の返済による支出	381,423	648,934
非支配株主からの払込みによる収入	-	166,540
配当金の支払額	1,100,542	1,141,574
非支配株主への配当金の支払額	43,823	35,992
自己株式の取得による支出	-	181
その他	15,246	27,158
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,742,950	1,581,198
現金及び現金同等物に係る換算差額	32,363	40,374
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,863,518	241,609
現金及び現金同等物の期首残高	5,963,674	7,827,193
現金及び現金同等物の期末残高	1 7,827,193	1 8,068,802

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 5社 (前連結会計年度 5社)

連結子会社の名称

日本コーティングセンター株式会社
東華隆(広州)表面改質技術有限公司
東賀隆(昆山)電子有限公司
漢泰国際電子股份有限公司
TOCALO USA, Inc.

2 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない関連会社の名称

NEIS & TOCALO (Thailand) CO.,Ltd.
PT. TANAKA MACHINERY

持分法を適用しない理由

持分法を適用しない関連会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、東華隆(広州)表面改質技術有限公司、東賀隆(昆山)電子有限公司、漢泰国際電子股份有限公司及びTOCALO USA, Inc.の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

a 満期保有目的の債券

償却原価法(利息法)

b その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

- a 原材料・貯蔵品
 - 移動平均法
- b 仕掛品
 - 個別法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社については、主として法人税法の規定に基づく定率法を採用し、在外連結子会社については、主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	2～50年
機械装置及び運搬具	3～10年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、発生時に全額費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

(5) 連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。また、外貨建その他有価証券は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部におけるその他有価証券評価差額金に含めております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は在外子会社の会計期間に基づく期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資を資金の範囲としております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

会計基準等の改正等に伴う会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当連結会計年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当連結会計年度において、連結財務諸表への影響額は軽微です。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
投資有価証券(株式)	492,437千円	492,437千円

2 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。

連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
貸出コミットメントの総額	3,000,000千円	3,000,000千円
借入実行残高		
差引額	3,000,000	3,000,000

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
	19,216千円	59,815千円

2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
一般管理費	740,255千円	718,932千円
当期製造費用	122,367	115,159
計	862,622	834,092

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
機械装置及び運搬具	2,522千円	5,107千円
その他(工具、器具及び備品)	5	27
計	2,528	5,134

4 固定資産除売却損の内容は、次のとおりであります。

(固定資産除却損)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物及び構築物	6,487千円	31千円
機械装置及び運搬具	7,286	2,331
その他(工具、器具及び備品)	831	23
計	14,605	2,386

(固定資産売却損)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
機械装置及び運搬具	10千円	千円

5 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

場所	用途	種類
神戸工場深江分室 (兵庫県神戸市東灘区)	事業用資産(工場、倉庫)	借地権、建物及び構築物、他

当社グループは、事業用資産については事業セグメントを基礎としてキャッシュ・フローを生み出す独立した区分でグルーピングを行っております。

神戸工場深江分室(兵庫県神戸市東灘区)については、当連結会計年度において、今後の利用計画の見直しを行ったことにより、賃借土地の返還で消滅が見込まれる借地権等の減損処理を行ったものであり、当資産グループの固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(323,527千円)として特別損失に計上いたしました。その内訳は、借地権309,817千円、建物及び構築物10,471千円、機械装置2,083千円、その他(工具、器具及び備品)1,153千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は将来キャッシュ・フローに基づく使用価値により測定しております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	49,867千円	32,150千円
組替調整額		
税効果調整前	49,867	32,150
税効果額	11,876	6,863
その他有価証券評価差額金	37,990	25,287
為替換算調整勘定		
当期発生額	119,686	96,497
その他の包括利益合計	157,677	71,210

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	15,800,000			15,800,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	601,108			601,108

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年 6月24日 定時株主総会	普通株式	531,961	35.00	平成27年 3月31日	平成27年 6月25日
平成27年10月30日 取締役会	普通株式	569,958	37.50	平成27年 9月30日	平成27年12月 2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年 6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	569,958	37.50	平成28年 3月31日	平成28年 6月27日

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	15,800,000			15,800,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	601,108	70		601,178

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取請求による増加 70株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	569,958	37.50	平成28年3月31日	平成28年6月27日
平成28年10月31日 取締役会	普通株式	569,958	37.50	平成28年9月30日	平成28年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	721,944	47.50	平成29年3月31日	平成29年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
現金及び預金勘定	8,197,444千円	8,386,587千円
預入期間が3か月を超える定期預金	370,251	317,784
現金及び現金同等物	7,827,193	8,068,802

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画等に照らして、必要な資金を主に銀行等金融機関からの長期借入によって調達しております。また、短期的な運転資金の調達は、銀行借入による方針であります。資金運用については、短期的な預金および安全性の高い金融資産等に限定し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券および取引先企業との業務または資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。借入金は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、返済期限は決算日後、最長で5年以内であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権について、営業本部が主体となり主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

満期保有目的の債券は、余資運用規程に従い、格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表されております。

市場リスク(金融商品市場における相場等の変動リスク)の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。連結子会社においても、当社と同様の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成28年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	8,197,444	8,197,444	
(2) 受取手形及び売掛金	9,137,867	9,137,867	
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,030,000	1,030,279	279
その他有価証券	159,663	159,663	
資産計	18,524,975	18,525,255	279
(1) 支払手形及び買掛金	3,035,780	3,035,780	
(2) 短期借入金	165,060	165,060	
(3) 長期借入金	439,328	441,750	2,421
負債計	3,640,168	3,642,590	2,421

当連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	8,386,587	8,386,587	
(2) 受取手形及び売掛金	9,985,529	9,985,529	
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	2,000,000	1,999,510	490
その他有価証券	191,814	191,814	
資産計	20,563,930	20,563,440	490
(1) 支払手形及び買掛金	3,206,643	3,206,643	
(2) 短期借入金	150,840	150,840	
(3) 長期借入金	3,053,875	3,041,711	12,164
負債計	6,411,359	6,399,195	12,164

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、(有価証券関係)注記をご参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社グループの信用状態は借入実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

(デリバティブ取引関係)注記をご参照ください。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
関連会社株式(非上場株式)	492,437	492,437

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金(*)	8,190,993			
受取手形及び売掛金	9,137,867			
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券(社債)	1,000,000		30,000	
合計	18,328,861		30,000	

(*) 現金及び預金のうち、現金6,451千円は金銭債権ではないため、含めておりません。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金(*)	8,380,856			
受取手形及び売掛金	9,985,529			
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券(社債)	2,000,000			
合計	20,366,386			

(*) 現金及び預金のうち、現金5,730千円は金銭債権ではないため、含めておりません。

4 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	165,060					
長期借入金	339,284	66,684	33,360			
合計	504,344	66,684	33,360			

当連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	150,840					
長期借入金	730,239	699,786	699,700	636,100	318,050	
合計	881,079	699,786	699,700	636,100	318,050	

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	連結決算日における時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額 を超えるもの	30,000	30,279	279
時価が連結貸借対照表計上額 を超えないもの	1,000,000	1,000,000	
合計	1,030,000	1,030,279	279

当連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	連結決算日における時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額 を超えるもの			
時価が連結貸借対照表計上額 を超えないもの	2,000,000	1,999,510	490
合計	2,000,000	1,999,510	490

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

(単位：千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	92,641	50,921	41,720
小計	92,641	50,921	41,720
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	67,022	81,039	14,016
小計	67,022	81,039	14,016
合計	159,663	131,960	27,703

当連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	134,837	64,416	70,420
小計	134,837	64,416	70,420
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	56,977	67,544	10,567
小計	56,977	67,544	10,567
合計	191,814	131,960	59,853

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度、退職一時金制度を設けております。また、一部の在外連結子会社は、確定拠出型の年金制度を設けております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,746,099千円	3,115,848千円
勤務費用	189,550	216,799
利息費用	21,773	6,004
数理計算上の差異の発生額	263,461	55,247
退職給付の支払額	105,035	104,691
退職給付債務の期末残高	3,115,848	3,178,713

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
年金資産の期首残高	2,243,661千円	2,325,349千円
期待運用収益	44,873	46,506
数理計算上の差異の発生額	87,893	44,757
事業主からの拠出額	223,481	142,176
退職給付の支払額	98,773	104,403
年金資産の期末残高	2,325,349	2,454,386

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	2,888,329千円	2,919,039千円
年金資産	2,325,349	2,454,386
	562,979	464,652
非積立型制度の退職給付債務	227,519	259,673
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	790,499	724,326
退職給付に係る負債	790,499千円	724,326千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	790,499	724,326

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
勤務費用	189,550千円	216,799千円
利息費用	21,773	6,004
期待運用収益	44,873	46,506
数理計算上の差異の費用処理額	351,354	100,004
確定給付制度に係る退職給付費用	517,804	76,291

(5) 退職給付に係る調整額
 該当事項はありません。

(6) 退職給付に係る調整累計額
 該当事項はありません。

(7) 年金資産に関する事項
 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
債券	34%	36%
株式	35	32
生命保険一般勘定	29	30
その他	2	2
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項
 主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
割引率	0.1～0.2%	0.2～0.4%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%
平均予想昇給率(ポイント制を含む)	1.7～3.9%	1.8～3.7%

3 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度10,001千円、当連結会計年度9,005千円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	225,796千円	241,820千円
貸倒引当金	27,822	21,363
退職給付に係る負債	249,606	230,483
役員退職慰労金	2,263	2,110
たな卸資産評価損	125,309	149,876
合併引継土地等評価差額	51,130	51,130
投資有価証券評価損	14,874	13,819
会員権評価損	19,680	19,969
一括償却資産	16,589	21,982
法定福利費	31,815	34,359
未払事業税等	61,881	49,407
その他	59,085	128,516
繰延税金資産小計	885,856	964,840
評価性引当額	97,466	34,157
繰延税金資産合計	788,390	930,682
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	10,360	20,455
合併引継土地等評価差額	228,368	228,368
その他	77,145	99,950
繰延税金負債合計	315,875	348,775
繰延税金資産の純額	472,515	581,907

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	33.0%	30.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6	0.2
試験研究費の税額控除	2.3	2.1
繰延税金資産の回収可能性の見直し		2.7
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.8	
連結子会社の適用税率差異	1.7	1.0
その他	0.9	1.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.3	26.5

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

溶射加工を中心に表面改質加工事業を展開している当社グループは、加工・販売拠点を基礎としたセグメントから構成されており、連結子会社はそれぞれが独立した経営単位であります。その中で重要性の高い「溶射加工(単体)」及び「国内子会社」の2つを報告セグメントとしております。

「溶射加工(単体)」は、当社にて行っている、半導体・FPD(フラットパネルディスプレイ)製造装置用部品、発電用ガスタービンや電力貯蔵用電池、各種軸受類などの産業機械用部品、鉄鋼用ロールや製紙用ロール、化学プラント部品などの設備部品等への溶射加工であります。

「国内子会社」は、国内連結子会社の日本コーティングセンター株式会社(JCC)にて行っている、切削工具や刃物、自動車用金型等へのPVD処理加工であります。

当連結会計年度より、従来「溶射加工」としていた報告セグメントの名称を「溶射加工(単体)」に、「PVD処理加工」としていた報告セグメントの名称を「国内子会社」にそれぞれ変更しておりますが、セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。また、前連結会計年度のセグメント情報についても、変更後の報告セグメントの名称で表示しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。セグメント間の取引における取引価格および振替高は第三者間取引価格に基づいております。

なお、資産については、事業セグメントに配分しておりません。

会計方針の変更に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更したため、事業セグメントの減価償却の方法を同様に変更しております。

なお、当該変更が当連結会計年度のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務 諸表計上額 (注) 3
	溶射加工 (単体)	国内 子会社	計				
売上高							
外部顧客への売上高	21,932,757	1,977,718	23,910,475	4,835,621	28,746,096		28,746,096
セグメント間の内部 売上高又は振替高	268,710	194,686	463,397	34,262	497,659	497,659	
計	22,201,467	2,172,405	24,373,872	4,869,884	29,243,756	497,659	28,746,096
セグメント利益	4,520,095	272,354	4,792,450	584,843	5,377,293	349,312	5,027,981
その他の項目							
減価償却費	854,301	222,143	1,076,445	325,673	1,402,119	158,673	1,560,792
のれんの償却額						56,255	56,255
受取利息	2	177	179	11,576	11,755	5,751	17,507
支払利息	2,591		2,591	24,940	27,531	1,458	26,073
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,948,395	403,423	2,351,819	210,509	2,562,328	1,187,329	3,749,657

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、T D処理加工、Z A Cコーティング加工、P T A処理加工、東華隆(東華隆(広州)表面改質技術有限公司、中国)、東賀隆(東賀隆(昆山)電子有限公司、中国)、漢泰国際電子(漢泰国際電子股份有限公司、台湾)、TOCALO USA(TOCALO USA, Inc.、米国)を含んでおります。

2 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 349,312千円には、各事業セグメントに配分していない全社損益(全社収益と全社費用の純額) 304,999千円、のれんの償却額 56,255千円、その他の調整額11,942千円が含まれております。全社損益は、主に当社の退職給付債務に係る数理計算上の差異の一括償却額、事業セグメントに帰属しない営業外収益、一般管理費及び研究開発費であります。
- (2) 減価償却費の調整額158,673千円は、主に事業セグメントに帰属しない本社および溶射技術開発研究所の減価償却費であります。
- (3) のれんの償却額の調整額56,255千円は、連結上発生するのれんの償却額で、各事業セグメントに配分していないものであります。
- (4) 受取利息の調整額5,751千円は、主に事業セグメントに帰属しない本社の受取利息であります。
- (5) 支払利息の調整額 1,458千円は、セグメント間取引消去であります。
- (6) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額1,187,329千円は、主に事業セグメントに帰属しない本社および溶射技術開発研究所の設備投資額であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務 諸表計上額 (注)3
	溶射加工 (単体)	国内 子会社	計				
売上高							
外部顧客への売上高	22,308,516	2,111,327	24,419,844	4,543,662	28,963,506		28,963,506
セグメント間の内部 売上高又は振替高	248,327	275,918	524,246	37,284	561,531	561,531	
計	22,556,844	2,387,245	24,944,090	4,580,947	29,525,037	561,531	28,963,506
セグメント利益	4,888,640	402,436	5,291,076	613,542	5,904,619	103,185	5,801,434
その他の項目							
減価償却費	1,019,038	266,869	1,285,907	274,136	1,560,044	143,116	1,703,160
のれんの償却額						12,407	12,407
受取利息	0	22	22	8,682	8,705	2,367	6,337
支払利息	2,096		2,096	17,413	19,509	4,542	14,966
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,836,634	684,721	3,521,356	996,034	4,517,390	1,472,324	5,989,715

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、T D処理加工、Z A Cコーティング加工、P T A処理加工、東華隆(東華隆(広州)表面改質技術有限公司、中国)、東賀隆(東賀隆(昆山)電子有限公司、中国)、漢泰国際電子(漢泰国際電子股份有限公司、台湾)、TOCALO USA(TOCALO USA, Inc.、米国)を含んでおります。

2 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 103,185千円には、各事業セグメントに配分していない全社損益(全社収益と全社費用の純額) 94,671千円、のれんの償却額 12,407千円、その他の調整額3,893千円が含まれております。全社損益は、主に事業セグメントに帰属しない営業外収益、一般管理費及び研究開発費であります。
- (2) 減価償却費の調整額143,116千円は、主に事業セグメントに帰属しない本社および溶射技術開発研究所の減価償却費であります。
- (3) のれんの償却額の調整額12,407千円は、連結上発生するのれんの償却額で、各事業セグメントに配分していないものであります。
- (4) 受取利息の調整額 2,367千円は、主にセグメント間取引消去および事業セグメントに帰属しない本社の受取利息であります。
- (5) 支払利息の調整額 4,542千円は、セグメント間取引消去であります。
- (6) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額1,472,324千円は、主に事業セグメントに帰属しない本社および溶射技術開発研究所の設備投資額であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	海外	合計
23,677,886	5,068,210	28,746,096

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	海外	合計
14,504,456	1,646,386	16,150,842

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
東京エレクトロン株式会社グループ	8,424,387	溶射加工(単体)

当連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	海外	合計
24,407,407	4,556,099	28,963,506

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	海外	合計
17,971,840	2,333,453	20,305,293

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
東京エレクトロン株式会社グループ	7,866,921	溶射加工(単体)

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	全社・消去	合計
	溶射加工 (単体)	国内 子会社	計			
減損損失				323,527		323,527

(注) 「その他」の金額は、ZACコーティング加工(神戸工場深江分室)に係るものであります。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去 (注)	合計
	溶射加工 (単体)	国内 子会社	計			
当期償却額					56,255	56,255
当期末残高					13,548	13,548

(注) 「全社・消去」の金額は、各事業セグメントに配分していないのれんに係るものであります。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去 (注)	合計
	溶射加工 (単体)	国内 子会社	計			
当期償却額					12,407	12,407
当期末残高						

(注) 「全社・消去」の金額は、各事業セグメントに配分していないのれんに係るものであります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	1,827.70円	2,016.43円
1株当たり当期純利益金額	198.40円	267.80円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

項目	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	3,015,513	4,070,252
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	3,015,513	4,070,252
普通株式の期中平均株式数(株)	15,198,892	15,198,874

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	29,070,210	32,252,866
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	1,291,218	1,605,500
(うち非支配株主持分(千円))	(1,291,218)	(1,605,500)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	27,778,992	30,647,365
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	15,198,892	15,198,822

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	165,060	150,840	3.9	
1年以内に返済予定の長期借入金	339,284	730,239	0.5	
1年以内に返済予定のリース債務	7,448	23,748		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	100,044	2,323,636	0.2	平成30年4月～ 平成34年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	16,633	95,485		平成30年4月～ 平成34年8月
その他有利子負債				
合計	628,471	3,323,950		

- (注) 1 平均利率については、当期末現在の残高及び利率を用いて算定した加重平均利率を記載しております。
2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は、以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	699,786	669,700	636,100	318,050
リース債務	22,961	23,007	22,425	19,644

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	7,069,994	14,141,020	21,479,105	28,963,506
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (千円)	1,297,568	2,583,453	4,199,227	5,803,236
親会社株主に 帰属する四半期(当期)純利益金額 (千円)	879,864	1,739,479	2,808,578	4,070,252
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	57.89	114.45	184.79	267.80

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	57.89	56.56	70.34	83.01

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,903,205	6,074,855
受取手形	1,373,912	1,502,042
売掛金	6,257,174	6,899,124
有価証券	1,000,000	2,000,000
仕掛品	473,500	480,586
原材料及び貯蔵品	878,289	956,457
前払費用	76,963	81,802
未収入金	106,868	86,591
繰延税金資産	428,557	425,770
その他	10,653	44,934
貸倒引当金	41,000	2,000
流動資産合計	16,468,124	18,550,166
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,477,446	5,232,102
構築物	162,068	139,296
機械及び装置	1,551,893	1,745,941
車両運搬具	1,046	900
工具、器具及び備品	208,053	270,685
土地	6,003,081	7,178,972
リース資産	19,510	25,699
建設仮勘定	123,940	2,002,254
有形固定資産合計	13,547,042	16,595,853
無形固定資産		
ソフトウェア	30,356	38,442
その他	11,787	37,787
無形固定資産合計	42,144	76,229
投資その他の資産		
投資有価証券	189,663	191,814
関係会社株式	3,098,885	3,265,426
関係会社出資金	475,283	475,283
破産更生債権等	34,239	30,974
長期前払費用	12,870	8,544
会員権	12,745	11,800
差入保証金	34,883	20,322
繰延税金資産	-	57,955
その他	9,953	8,221
貸倒引当金	34,206	30,958
投資その他の資産合計	3,834,317	4,039,382
固定資産合計	17,423,504	20,711,466
資産合計	33,891,628	39,261,632

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	775,928	235,592
買掛金	2,269,981	2,848,099
1年内返済予定の長期借入金	272,600	633,200
リース債務	6,529	7,017
未払金	451,970	763,281
未払費用	1,259,088	1,484,893
未払法人税等	787,129	775,671
未払消費税等	138,109	64,584
預り金	75,016	77,219
賞与引当金	635,700	676,200
設備関係支払手形	184,849	3,213
流動負債合計	6,856,904	7,568,972
固定負債		
長期借入金	-	2,166,800
リース債務	16,633	21,589
長期未払金	2,714	2,714
繰延税金負債	49,343	-
退職給付引当金	562,979	464,652
固定負債合計	631,670	2,655,755
負債合計	7,488,575	10,224,727
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,658,823	2,658,823
資本剰余金		
資本準備金	2,292,454	2,292,454
その他資本剰余金	1,050	1,050
資本剰余金合計	2,293,504	2,293,504
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	6,220,000	6,220,000
繰越利益剰余金	15,986,801	18,595,547
利益剰余金合計	22,206,801	24,815,547
自己株式	773,418	773,599
株主資本合計	26,385,710	28,994,275
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,342	42,629
評価・換算差額等合計	17,342	42,629
純資産合計	26,403,053	29,036,904
負債純資産合計	33,891,628	39,261,632

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
売上高	23,777,527	24,299,076
売上原価	16,046,289	15,735,124
売上総利益	7,731,237	8,563,952
販売費及び一般管理費	2 3,812,698	2 3,863,904
営業利益	3,918,539	4,700,047
営業外収益		
受取利息及び配当金	128,705	112,437
その他	331,054	281,989
営業外収益合計	459,760	394,427
営業外費用		
支払利息	2,881	2,379
その他	50,800	67,131
営業外費用合計	53,681	69,510
経常利益	4,324,617	5,024,964
特別利益		
固定資産売却益	-	4,625
特別利益合計	-	4,625
特別損失		
固定資産除売却損	11,872	544
減損損失	323,527	-
ゴルフ会員権評価損	2,812	945
保険解約損	562	-
特別損失合計	338,775	1,490
税引前当期純利益	3,985,842	5,028,099
法人税、住民税及び事業税	1,406,732	1,390,811
法人税等調整額	183,004	111,374
法人税等合計	1,223,727	1,279,436
当期純利益	2,762,114	3,748,662

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)		当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	2,404,297	15.0	2,178,197	13.8
労務費		4,310,288	26.9	4,212,131	26.6
外注加工費		4,657,746	29.1	4,621,737	29.2
経費		4,656,783	29.0	4,802,350	30.4
当期総製造費用		16,029,116	100.0	15,814,416	100.0
期首仕掛品棚卸高	2	801,549		699,803	
合計		16,830,665		16,514,219	
期末仕掛品棚卸高		699,803		742,544	
他勘定振替高		95,212		81,982	
当期製造原価		16,035,648		15,689,693	
たな卸資産評価損		10,640		45,431	
当期売上原価		16,046,289		15,735,124	

(注) 1 経費の主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
電力及び燃料費	780,482	733,571
消耗品費	1,403,502	1,518,375
減価償却費	966,883	1,094,242

- 2 他勘定振替高は、広告宣伝費や研究開発費等に振替えられたものであります。
3 当社の採用している原価計算の方法は、実際原価による個別原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,658,823	2,292,454	1,050	2,293,504	6,220,000	14,326,606	20,546,606
当期変動額							
剰余金の配当						1,101,919	1,101,919
当期純利益						2,762,114	2,762,114
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計						1,660,195	1,660,195
当期末残高	2,658,823	2,292,454	1,050	2,293,504	6,220,000	15,986,801	22,206,801

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	773,418	24,725,515	55,332	55,332	24,780,848
当期変動額					
剰余金の配当		1,101,919			1,101,919
当期純利益		2,762,114			2,762,114
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			37,990	37,990	37,990
当期変動額合計		1,660,195	37,990	37,990	1,622,204
当期末残高	773,418	26,385,710	17,342	17,342	26,403,053

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,658,823	2,292,454	1,050	2,293,504	6,220,000	15,986,801	22,206,801
当期変動額							
剰余金の配当						1,139,916	1,139,916
当期純利益						3,748,662	3,748,662
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)							
当期変動額合計						2,608,745	2,608,745
当期末残高	2,658,823	2,292,454	1,050	2,293,504	6,220,000	18,595,547	24,815,547

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	773,418	26,385,710	17,342	17,342	26,403,053
当期変動額					
剰余金の配当		1,139,916			1,139,916
当期純利益		3,748,662			3,748,662
自己株式の取得	181	181			181
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)			25,287	25,287	25,287
当期変動額合計	181	2,608,564	25,287	25,287	2,633,851
当期末残高	773,599	28,994,275	42,629	42,629	29,036,904

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(利息法)

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

原材料・貯蔵品

移動平均法

仕掛品

個別法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 2～50年

機械装置及び車両運搬具 4～6年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、発生時に全額費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

また、外貨建その他有価証券は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部におけるその他有価証券評価差額金に含めております。

(3) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

会計基準等の改正等に伴う会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当事業年度において、財務諸表に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権・債務

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
短期金銭債権	246,158千円	270,644千円
短期金銭債務	125,489	129,083

2 保証債務等

金融機関からの借入金に対する保証債務

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
東華隆(広州)表面改質技術 有限公司	333,574千円 (全額が外貨建保証債務 19,182千人民元)	220,664千円 (全額が外貨建保証債務 13,546千人民元)

3 貸出コミットメント契約

運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。
当事業年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
貸出コミットメントの総額	3,000,000千円	3,000,000千円
借入実行残高		
差引額	3,000,000	3,000,000

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

		前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業取引	売上	394,784千円	309,712千円
	仕入	216,710	334,287
	その他	87,776	109,539
営業取引以外の取引	収入分	198,159	210,546
	支出分		13,990

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
貸倒引当金繰入額	9,767千円	42,248千円
人件費	1,386,287	1,500,447
賞与引当金繰入額	222,104	238,671
退職給付費用	167,025	8,797
減価償却費	25,830	36,456
研究開発費	631,895	652,710
おおよその割合		
販売費	43%	43%
一般管理費	57	57

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載していません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
子会社株式	2,606,447	2,772,988
関連会社株式	492,437	492,437
計	3,098,885	3,265,426

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	195,859千円	208,337千円
貸倒引当金	23,092	10,083
退職給付引当金	172,159	142,090
役員退職慰労金	982	829
たな卸資産評価損	118,902	130,645
合併引継土地等評価差額	51,130	51,130
投資有価証券評価損	14,874	13,819
関係会社出資金評価損	59,377	59,377
会員権評価損	19,680	19,969
一括償却資産	13,104	16,485
法定福利費	27,112	29,115
未払事業税等	57,465	40,665
その他	14,046	14,196
繰延税金資産小計	767,787	736,745
評価性引当額	145,892	
繰延税金資産合計	621,894	736,745
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	10,360	20,455
合併引継土地等評価差額	228,368	228,368
その他	3,950	4,195
繰延税金負債合計	242,680	253,019
繰延税金資産の純額	379,214	483,725

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率 (調整)	33.0%	30.8%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	0.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.5	0.6
試験研究費の税額控除	2.4	2.2
繰延税金資産の回収可能性の見直し		2.8
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.9	
その他	0.6	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.7	25.5

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形 固定資産	建物	5,477,446	124,582	31	369,894	5,232,102	5,015,482
	構築物	162,068	5,735		28,506	139,296	293,895
	機械及び装置	1,551,893	921,650	699	726,903	1,745,941	11,178,943
	車両運搬具	1,046	325	1	469	900	2,563
	工具、器具及び備品	208,053	197,414	0	134,783	270,685	1,211,214
	土地	6,003,081	1,175,891			7,178,972	
	リース資産	19,510	12,318		6,128	25,699	504,849
	建設仮勘定	123,940	2,002,254	123,940		2,002,254	
	計	13,547,042	4,440,170	124,672	1,266,686	16,595,853	18,206,949
無形 固定資産	ソフトウェア	30,356	21,812		13,727	38,442	
	その他	11,787	26,000			37,787	
	計	42,144	47,812		13,727	76,229	

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

(機械及び装置)	東京工場	溶射設備等	401,527千円
	明石工場	溶射設備等	159,880千円
	北九州工場	溶射設備等	98,847千円
	名古屋工場	溶射設備等	88,482千円
	溶射技術開発研究所	研究設備等	84,773千円
	水島工場	溶射設備等	58,023千円
(土地)	東京工場	第2工場用地	721,141千円
	水島工場	新工場建設用地	440,264千円
(建設仮勘定)	本社	新本社建設工事関係等	1,208,816千円
	東京工場	第2工場建物等	530,091千円
	溶射技術開発研究所	研究設備等	127,777千円
	明石工場	溶射設備等	101,559千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	75,206	32,958	75,206	32,958
賞与引当金	635,700	676,200	635,700	676,200

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は電子公告とする。ただし、事故その他のやむを得ない事由によつて電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.tocalo.co.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

取得請求権付株式の取得を請求する権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第65期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日) 平成28年6月27日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成28年6月27日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第66期第1四半期(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日) 平成28年8月10日近畿財務局長に提出

第66期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日) 平成28年11月11日近畿財務局長に提出

第66期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日) 平成29年2月10日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成28年6月28日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号(特定子会社の異動)の規定に基づく

臨時報告書 平成29年1月31日近畿財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年6月23日

トーカロ株式会社
取締役会 御中

P w C 京都監査法人

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員

公認会計士 松 永 幸 廣

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員

公認会計士 浦 上 卓 也

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているトーカロ株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、トーカロ株式会社及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

会社の平成28年3月31日をもって終了した前連結会計年度の連結財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該連結財務諸表に対して平成28年6月24日付けで無限定適正意見を表明している。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、トーカロ株式会社の平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、トーカロ株式会社が平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年6月23日

トーカロ株式会社
取締役会 御中

PWC 京都監査法人

指 定 社 員 業 務 執 行 社 員	公認会計士	松 永 幸 廣
指 定 社 員 業 務 執 行 社 員	公認会計士	浦 上 卓 也

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているトーカロ株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第66期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、トーカロ株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

会社の平成28年3月31日をもって終了した前事業年度の財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該財務諸表に対して平成28年6月24日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。